準拠チェックと ARIS PROCESS MINING

ARIS Process Mining 10

2026 年 10 月

This document applies to ARIS Process Mining Version 10 and to all subsequent releases.

Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2020-2026 SAG Aris GmbH, Saarbrücken, Germany and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name ARIS and all SAG Aris GmbH product names are either trademarks or registered trademarks of SAG Aris GmbH and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

The Software may contain or be distributed with certain commercial third party components (“Third Party Components”), which may be subject to special license terms and conditions (“Third Party Terms”) located at https://aris.com/terms.

Third Party Terms include important licensing and warranty information and disclaimers of third party licensors. For the avoidance of doubt, if Customer uses the Software in accordance with the Documentation, the Third Party Terms do not restrict the rights granted under this Agreement. In the event that a third party manufacturer no longer provides active support for any Third Party Component, Supplier will use commercially reasonable efforts to respond to any issues with the Software related to the Third Party Components.

Use, reproduction, transfer, publication or disclosure is prohibited except as specifically provided for in your License Agreement with SAG Aris GmbH and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

目次

1. プロセス コンプライアンスの分析 4
1.1. プロセス適合チェックの実行 4
1.2. 準拠ルール チェックを実行する 5
1.3. [コンプライアンス] アプリの使用 6
1.3.1. 基本用語 6
1.3.1.1. プロセス適合 6
1.3.1.2. 適合に関する問題 7
1.3.1.3. フィットネス 8
1.3.1.4. 標準コンプライアンス フィールド 8
1.3.2. 概要 9
1.3.3. プロセス適合 11
1.3.4. ルール準拠 12
1.3.5. 時間ディメンションと単位の設定 13
1.3.6. 時間枠の選択 14
1.4. コンプライアンス関連分析基準の使用 15
2. 参照プロセス 17
2.1. ARIS Process Mining から開始して参照プロセスを転送する 17
2.2. ARIS から開始して参照プロセスを転送する 20
2.3. アクティビティ マッピングの作成 22
2.4. アクティビティ マッピングの編集 23
2.5. プロセス詳細の表示 25
2.6. 参照プロセスの置換 25
2.7. 適合チェック用参照プロセスの有効化 26
2.8. モデル作成の原則 26
3. コンプライアンス 29
3.1. 適合チェックの管理 29
3.1.1. 1 つの参照プロセスの適合チェック 29
3.1.2. 複数の参照プロセスの適合チェック 30
3.1.2.1. 適合チェックに複数のプロセスを選択する 30
3.1.2.2. 参照プロセスにフィルターを定義する 31
3.2. 準拠ルールの管理 32
3.2.1. 準拠ルールの作成 32
3.2.2. 準拠ルールの条件を作成する 34
3.2.3. 準拠ルールをアクティブにする 38
3.2.4. 分析モデルで準拠ルールを使用する 39
3.2.5. 準拠ルールの削除 40
3.2.6. データ セットの再計算 41
4. 適合分析のために ARIS と ARIS Process Mining を統合する 42
4.1. ARIS Basic および Advanced の統合 42
4.1.1. 必要条件 42
4.1.2. 統合の設定 42
4.2. ARIS Enterprise の統合 50
4.2.1. 必要条件 50
4.2.2. 統合の設定 51
5. サポートおよび法的情報 60
5.1. ドキュメンテーションのスコープ 60
5.2. サポート 60
5.3. Legal notices 61

1. プロセス コンプライアンスの分析

ARIS Process Mining を使用するコンプライアンス分析は、プロセス パフォーマンスを低下させる問題や不整合の発見に役立ちます。 コンプライアンス分析には、プロセス適合分析と準拠ルール チェックが含まれます。

プロセス適合分析と準拠ルール チェックを使用して作業するために、[コンプライアンス] [6] アプリを使用できます。 **[コンプライアンス]** アプリは ARIS Process Mining の標準アプリであり、すぐに使用できます。

プロセス適合チェック

プロセス適合チェックは、リスク指標などのビジネス属性を考慮せずに、ケースの構造と参照プロセスを比較します。 ARIS は、目標 (to-be) プロセスのモデル化のためのメイン リポジトリです。 参照プロセスは **BPMN** または **EPC** のモデルを使用してモデル化されています。 ARIS Process Mining は、アプリケーション システムからインポートされるイベント ログに基づいて再生成されるプロセスを発見および分析するために使用されます。 プロセス適合チェックは、参照プロセスと実行されたプロセス インスタンスを比較し、関連する指標とディメンションを計算します。

注

> **注記**
> 許容できるパフォーマンスを達成するために、アルゴリズムでは、複数の可能なパスが存在する場合にリファレンス モデルを通じてパスを発見するためにヒューリスティクスが使用されます。 このアルゴリズムは、適合とされたケースがリファレンス モデルに適合することを保証します。 ただし、プロセス適合チェックでは、リファレンス モデルでは可能なパスがあっても非適合とされるケースを示す場合があります (いわゆる偽陰性)。 偽陰性は、リファレンス モデルにゲートウェイのカスケードがある複雑な制御構造が含まれる場合に発生する場合があります。 そのようなリファレンス モデルは、しばしば意味論上の喪失なしで簡易化できる可能性があるため、適合分析での偽陰性を防ぎます。 リファレンス モデル内で同じ名前を持つ複数のタスクを回避することも、プロセス適合分析の品質を改善させるのに役立ちます。
>
> リファレンス モデルが EPC である場合、そのモデルに非公式に非適合とされる可能性がある一部のケースが、適合として表示される可能性があります。 これは、EPC に包含的 OR 演算子が含まれると発生する可能性があります。 EPC の非公式意味論は、そのような演算子の出力分岐が 1 つ以上選ばれていることを必要とします。 しかし、適合チェックでは、すべての出力分岐が任意選択と見なされる包含的ゲートウェイの運用上の BPMN 意味論が常に使用されます。

準拠ルール チェック

コンプライアンス ルールの確認は、本稼働システムで実行および測定されたプロセスが、コンプライアンス ルールで定義された条件に準拠しているかどうかを分析します。 準拠ルール チェックでは、ビジネス属性を評価する叙述ルールを策定できますが、プロセス構造情報の使用はごく限られます。

1.1. プロセス適合チェックの実行

ARIS Process Mining で [コンプライアンス] [6] アプリを使用して プロセス適合 [6] を分析できます。 [適合率] [6]、[フィットネス] [8] の指標と、[適合に関する問題] タイプ [7]のディメンションが、ほか

のすべての基準のように ARIS Process Mining で提供され、同様に処理されます。たとえば、特定のサブセットのプロセス インスタンス (ケース) のみの適合を表示するためにフィルターを使用できます。

手順

1. プロセス適合分析を実行する前に、参照プロセスを ARIS から ARIS Process Mining へ転送する必要があります。 転送されたプロセスは、後日の分析でも利用できます。 すべての適合チェックに対してこの手順を実行する必要はありません。 プロセスの再設計後など、分析する参照プロセスを変更する場合のみ、実行する必要があります。
2. ご使用の ARIS Process Mining バージョンによって、参照プロセスを ARIS から ARIS Process Mining に転送するためのオプションは異なります。
   a. プロセス転送を ARIS Process Mining から開始します。 [17]このオプションは、ARIS Process Mining と ARIS を組み合わせたディプロイメントを使用している場合のみ利用できます。
   b. プロセス転送を ARIS から開始します。 [20] このオプションは、ARIS Process Mining と ARIS を組み合わせたディプロイメントを使用していて、ARIS Process Mining をスタンドアロン バージョンとして使用している場合に利用できます。

      ARIS Process Mining をスタンドアロン バージョンで使用する場合は、
      まず ARIS Process Mining と ARIS を統合する必要があります [42]。
3. アクティビティ マッピングを作成します [22]。参照プロセスのタスクと、実行されたプロセスのアクティビティをマッピングする必要があります。
4. プロセス適合チェックの基礎として、参照プロセスを選択します [29]。
5. プロセス適合チェックに [適合] アプリを使用します [6]。

プロセス適合チェックを実行しました。

1.2. 準拠ルール チェックを実行する

コンプライアンス ルールの確認は、本稼働システムで実行および測定されたプロセスが、コンプライアンス ルールで定義された条件に準拠しているかどうかを分析します。

準拠ルールはケースに適用されるため、コンプライアンスはケースのプロパティです。 ケースは、1 つまたは複数の定義済みルール (ルール セット) を使用してコンプライアンスが確認されます。 ルールには、準拠すべきケースが満たす必要がある条件が含まれます。 すべての定義されたルールを満たすケースは、ルールのセットに準拠します。 1 つ以上のルールに違反するケースは、準拠していません。 そのケースは、ルールの観点から準拠ルールの問題があります。

例 1

- 請求書は支払う前に承認される必要があります。
- 「Create invoice」(請求書の作成) アクティビティには、通常、1 時間近くかける必要があります。
- リスク カテゴリが「重大」である場合は、そのケースには「Review Purchase Requisition」(購買依頼の評価) が含まれなければいけません。
- 顧客注文の納品日は、目標納品日の 1 日以内である必要があります。

手順

1. 準拠ルールを作成します [32]。
2. ルール条件を作成します [34]。
3. 準拠ルールをアクティブ化します [38]。

4. 準拠ルールの確認には、**[コンプライアンス]** アプリ [6]を使用します。

準拠ルール チェックを実行しました。

1.3. [コンプライアンス] アプリの使用

プロセス適合分析とコンプライアンス ルールの確認 [5]を使って作業するために、**[コンプライアンス]** アプリを使用できます。 **[コンプライアンス]** アプリは標準アプリであり、すぐに使用できます。
アクティビティ マッピングを作成し、データ セットにロードして [22]いるか、
コンプライアンス ルールを作成 [32]していれば、アプリを分析に追加できます。

必要条件

アクティビティ マッピング [22]またはコンプライアンス ルール [32]を作成していること。

手順

1. 作成されたアクティビティ マッピング [22]または準拠ルール セット [32]があるデータ セットを含むプロジェクトの分析を作成します。
2. **[コンプライアンス]** アプリを分析に追加します。

[コンプライアンス] アプリが分析に追加され、すぐに使用できます。

- [概要] [9] タブに、分析の最も重要なコンプライアンス基準が表示されます。
- [適合] [11] タブで、適合分析を詳細に調べることができます。
- [ルールの確認] [12] タブで、ルール コンプライアンスに関するプロセスを確認できます。

また、時間ディメンションと単位を設定 [13]して、すべてのコンプライアンス分析に時間枠を選択する [14]こともできます。

1.3.1. 基本用語

このセクションでは、プロセス コンプライアンス チェックの実行時に使用される最も重要な用語について説明します。 基本用語の知識があると、ARIS Process Mining の仕組みを理解しやすくなります。

1.3.1.1. プロセス適合

ケースは、参照プロセスと段階的に一致すれば適合です。 ケースは、アクティビティのオカレンスのどれかが参照プロセスと不整合であれば非適合です。

計算によって、各ケースの適合指標に可能な値 (**[適合]** と **[非適合]**) が充当されます。 **[適合率]** には、与えられた選択項目の適合ケースのパーセンテージが表示されます。 たとえば、適合率 0.87 は、使用可能なケースの 87% が参照プロセスに適合することを意味します。

ARIS リファレンス モデルは、タスクが実行されるシーケンスとロジックを確立します。 モデルには、膨大な数のタスク シーケンスが含まれる場合があります。 たとえば、モデルに並列ゲートウェイの分割を含めることができます。 そのようなゲートウェイから生じる分岐は任意の順序で実行でき、多くのタスク シーケンスが前述の構造と適合します。 一方、ゲートウェイの合流は同期ポイントです。そのようなゲートウェイ

は、そのゲートウェイの入力分岐からのすべてのタスクが、そのゲートウェイの出力分岐からのタスクのどれかが実行可能になる前に完了していなければならないことを示します。

適合チェックは、イベント ログをアクティビティの線形シーケンスに変換します。 それから、アクティビティ シーケンスが、リファレンス モデルに従ったタスクの順序に対応するかどうかを判断します。 さらに、モデルと適合するとみなされるアクティビティ シーケンスについては、最後のステップがプロセスに対してモデル化された終了イベントのどれかで終了しなければなりません。 これは、まだ終了していないプロセス (つまり、それが完了するにはソース システムからのインポートがさらに必要なプロセス) が、非準拠に分類される可能性が高いことを示唆します。

適合チェックでは、ケースの非適合についてさまざまな理由の違いがわかります。 それらの理由は、適合に関する問題 [7]と呼ばれます。

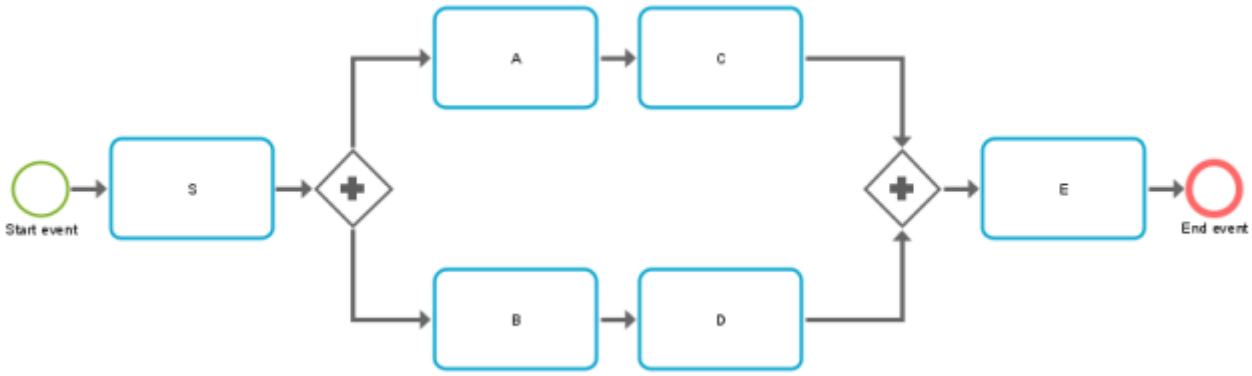
1.3.1.2. 適合に関する問題

適合チェックでは、ケースの非適合についてさまざまな理由の違いがわかります。 それらの理由は、適合に関する問題と呼ばれます。

適合に関する問題には複数のタイプがあります。

例 2

以下の図は、図で BPMN プロセスを示したものです。このプロセスは、以下で説明する非適合タイプの例についてのリファレンス モデルです。



- アクティビティの特定のペアが誤った順序で発生します。

  例:

  非適合アクティビティの順序: S、C、A、B、D、E
- アクティビティ シーケンスが誤ったアクティビティから始まります。

  例:

  非適合アクティビティの順序: E、A、C、B、D、E
- アクティビティ シーケンスのすべてのステップが完了していますが、到達した終了イベントがありません。 これは非適合プロセスを示します。

  例:

  非適合アクティビティの順序: S、A、C、B、D

- アクティビティ シーケンスのアクティビティが、モデル タスクと一致しません。
  例:
  プロセス タイプ Z が発生します。 Z がモデルの一部でなければ､Z を含むプロセスがこのカテゴリになります。
  非適合アクティビティの順序: S、A、C、B、Z、D、E

アルゴリズムが複雑なため、適合に関する問題は、最も妥当な推測をベースに報告されます。 つまり、非適合について ARIS Process Mining レポートよりも多くの理由がある可能性があります。

1.3.1.3. フィットネス

フィットネスは、ケースと参照プロセスの適合度を表します。 フィットネス値は、ケースのアクティビティと参照プロセスの一致度を数値化します。 100 のフィットネス値は、適合ケースに割り当てられます。

1.3.1.4. 標準コンプライアンス フィールド

分析モデルでは、以下の標準コンプライアンス フィールドが使用できます。

ルール チェック

[ルール チェック] フィールドは、アクティブな準拠ルールに対するケースの確認結果を集約します。 このフィールドの値は、**[準拠]** または **[非準拠]** のいずれかです。 すべてのルールが真と評価されるとケースは準拠しています。ケースの観点から 1 つ以上のルールが偽と評価されると非準拠です。 **[ルール チェック]** フィールドは、1 つ以上の準拠ルールが作成された場合のみ、分析モデルで使用できます。 **[ルール チェック]** フィールドは、準拠ルールが定義されると使用できます。

ケース準拠

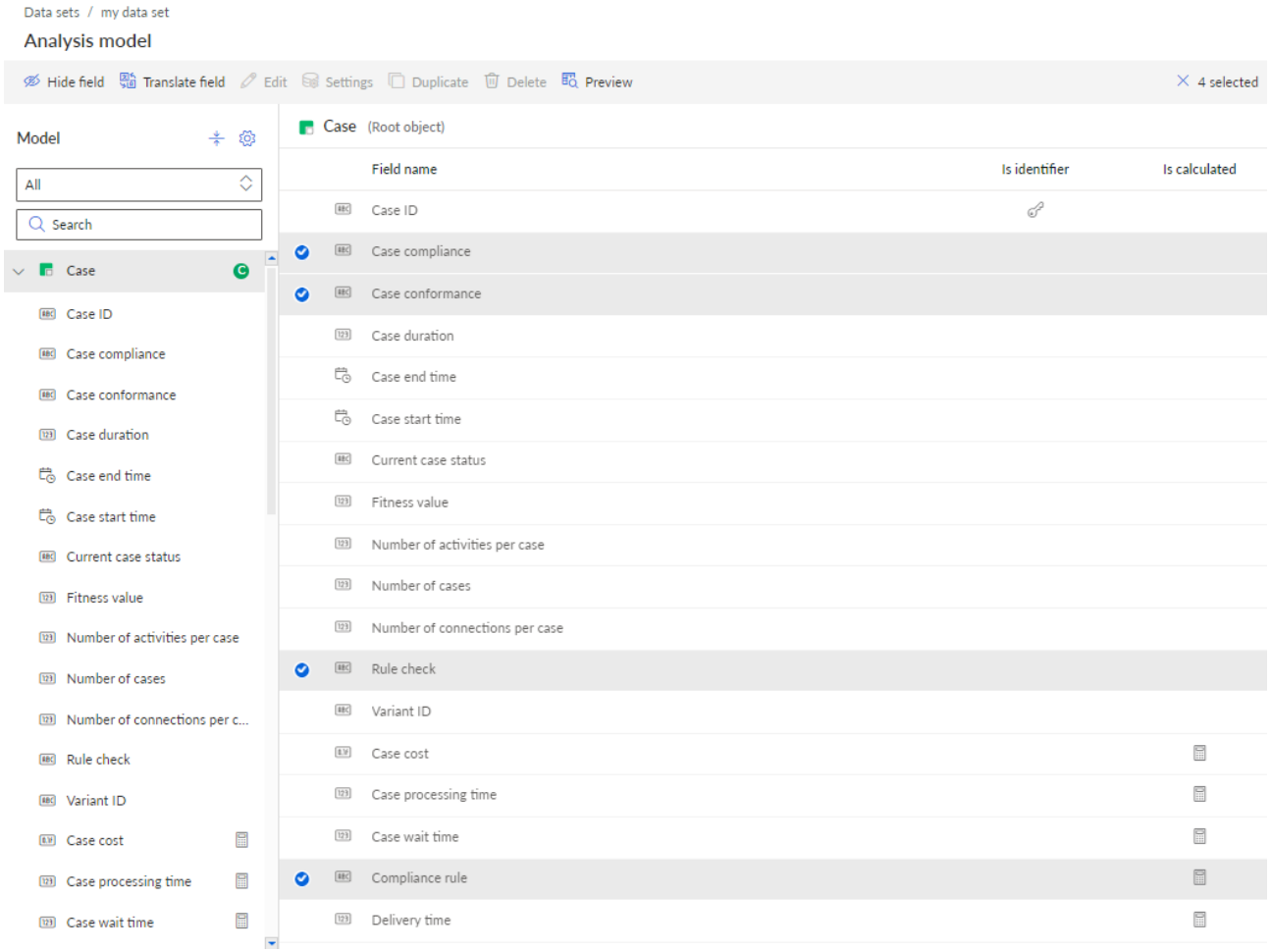
[ケース準拠] フィールドは、ルール チェックと適合チェックの全体結果を集約します。 このフィールドの値は、**[準拠]** または **[非準拠]** のいずれかです。 **[ケース準拠]** フィールドは、1 つ以上の準拠ルールがアクティブであるか、適合マッピングが定義されている場合のみ、分析モデルで使用できます。 コンプライアンス分析の未使用コンポーネントは、**[ケース準拠]** フィールドの集約値には影響しません。 たとえば、適合チェックを使用できない場合、**[ケース準拠]** の値は、**[ルール チェック]** の値が **[準拠]** である場合のみ [準拠] になります。 準拠ルールが定義されている場合に、**[ケース準拠]** フィールドが使用できます。

ケースの適合

[ケースの適合] フィールドは、適合チェックの結果を集約します。 このフィールドの値は、**[準拠]** または **[非準拠]** のいずれかです。 ケースは、参照プロセスと段階的に一致すれば適合です。 ケースは、アクティビティのオカレンスのどれかが参照プロセスと不整合であれば非適合です。 **[ケースの適合]** フィールドは、適合マッピングが定義されている場合のみ、分析モデルで使用できます。 **[ケースの適合]** フィールドは、アクティビティ マッピングが定義されている場合に使用できます。

例 3

標準コンプライアンス フィールドである **[ケース準拠]**、**[ケースの適合]**、**[ルール チェック]** を含む分析モデル。



1.3.2. 概要

[概要] タブには、適合とルールの確認の結果が統合されたビューが用意されます。 このビューによって、ケースの準拠を素早く判断できます。 タブに、分析の最も重要なコンプライアンス基準が表示されます。

- 適合ケースと非適合ケースの数
- 準拠ケースと非準拠ケースの数
- 適合率 [6]
- 準拠率

[概要] タブの下のセクションにある **[詳細コンプライアンス]** ビューでは、適合とコンプライアンス チェックの結果を両方一緒に表示したり、一度に 1 つのみ表示したりできます。

選択項目の設定

個別のグラフでデータ ポイントを選択してフィルターを設定できます。 タブにあるほかのすべてのグラフは、選択項目のフィルターで絞り込まれます。 ほかのすべての分析アプリと同様に、**[適合]** アプリでフィルターを使用できます。 たとえば、フィルターを保存して組み合わせることができます。 詳細については、「プロセスのフィルター」の章を参照してください。

適合対非適合のケースと準拠対非準拠のケース

円グラフに、適合/準拠のケース (デフォルトでは青いマーク付き) と非適合/非準拠のケース (デフォルトでは赤いマーク付き) の合計数が表示されます。 対応する縦棒グラフに、期間内のケースの分布が表示されます。

ARIS Process Mining バージョンが参照プロセスの複数選択 [30]をサポートしている場合は、適合チェックの結果を使用するグラフに対象外のケースも追加表示されます。対象外のケースは、参照プロセスに設定されているフィルター [31]が原因で適合チェックに含まれないケースです。対象外のケースは、グラフでグレーのマークが付きます。

円グラフの個別部分を選択して、該当するケースに絞り込むことができます。

また、縦棒グラフで期間を絞り込むこともできます。 ケースを特定の時点に絞り込むには、縦棒を選択します。 縦棒を選択するとスライダーが表示されます。 マウス ポインターでスライダーを移動させ、タイムラインに期間を設定します。

適合率とフィットネス値

[適合率] と **[フィットネス]** のグラフ (以下の例には表示されていません) に、選択項目 (選択した時点の適合ケースなど) に対応するそれらの値が表示されます。 ケースにフィルターを適用していない場合、それらの値がすべてのケースに適用されます。 対応する折れ線グラフに、期間内の適合率またはフィットネス値の分布が表示されます。

縦棒グラフと同様に、時点を選択したりスライダーを使用して期間を設定したりできます。 スライダーは、折れ線グラフの点を選択すると表示されます。

例 4

例は、**[適合]** の **[詳細コンプライアンス]** ビューを示しています。 適合チェックには、対象外のケース (グラフでグレーのマークが付きます) も含まれます。

1.3.3. プロセス適合

[適合] タブでは、個別の適合に関する問題を調べて、プロセス適合分析を詳しく調査できます。 ARIS Process Mining で識別された個別の適合に関する問題を選択して、対応する適合指標を表示できます。アプリには、適合分析に関連するすべての基準 (適合率 [6]、フィットネス [8]、適合に関する問題 [7]など) を提供します。

タブに、ダッシュボードの第 1 行に関連する適合指標が表示されます。

- 非適合ケースの総数
- 個別の問題の総数
- 適合ケースと非適合ケースのスループット時間
- 適合ケースごとと非適合ケースごとのアクティビティ

[適合に関する問題のタイプ] グラフには、**[無効な開始アクティビティ]**、**[無効な終了アクティビティ]**、**[予期しない連続アクティビティ]** など、すべてのケースのさまざまな問題のタイプの割合がグラフィックで表示されます。

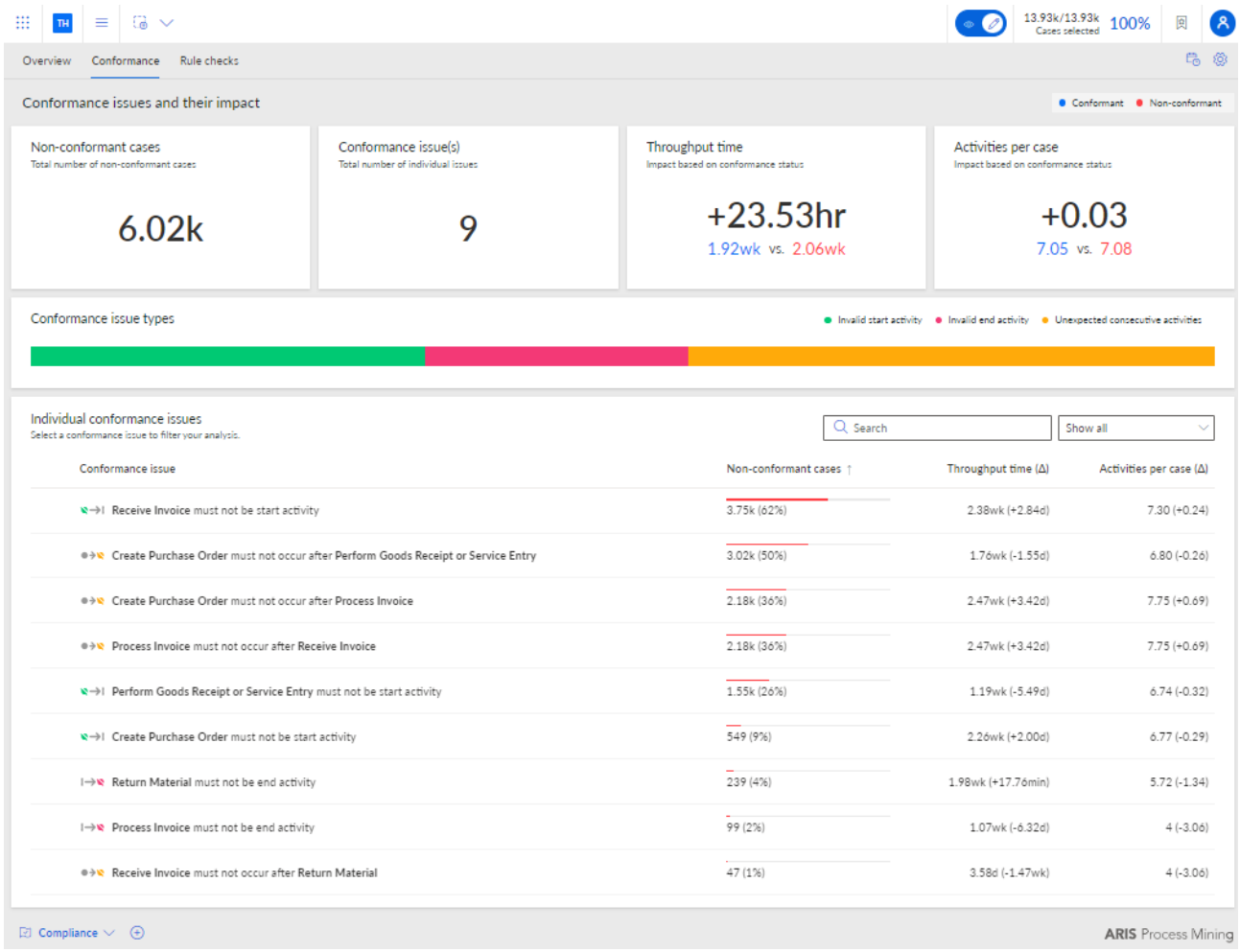
[個別の適合に関する問題] テーブルには、個別に適合に関する問題の一覧が、対応する指標値とともに表示されます。 1 つまたは複数の適合に関する問題を選択して、分析を絞り込むことができます。

[適合率] と **[フィットネス]** のグラフに、選択項目 (選択した時点の適合ケースなど) に対応するそれらの値が表示されます。 ケースにフィルターを適用していない場合、それらの値がすべてのケースに適用されます。対応する折れ線グラフに、期間内の適合率またはフィットネス値の分布が表示されます。

縦棒グラフと同様に、時点を選択したりスライダーを使用して期間を設定したりできます。 スライダーは、折れ線グラフの点を選択すると表示されます。

[バリアントとそのフィットネス] 図に、さまざまなバリアントとそれら固有のフィットネスが表示されます。縦棒グラフのバリアントの上にマウス ポインターを移動すると、ツールヒントが表示されます。 たとえば、25 個のケースと 87 のフィットネス率が表示されます。これは、このバリアントに 25 個のケースがあり、フィットネス率が 87 であることを意味します。

例 5



1.3.4. ルール準拠

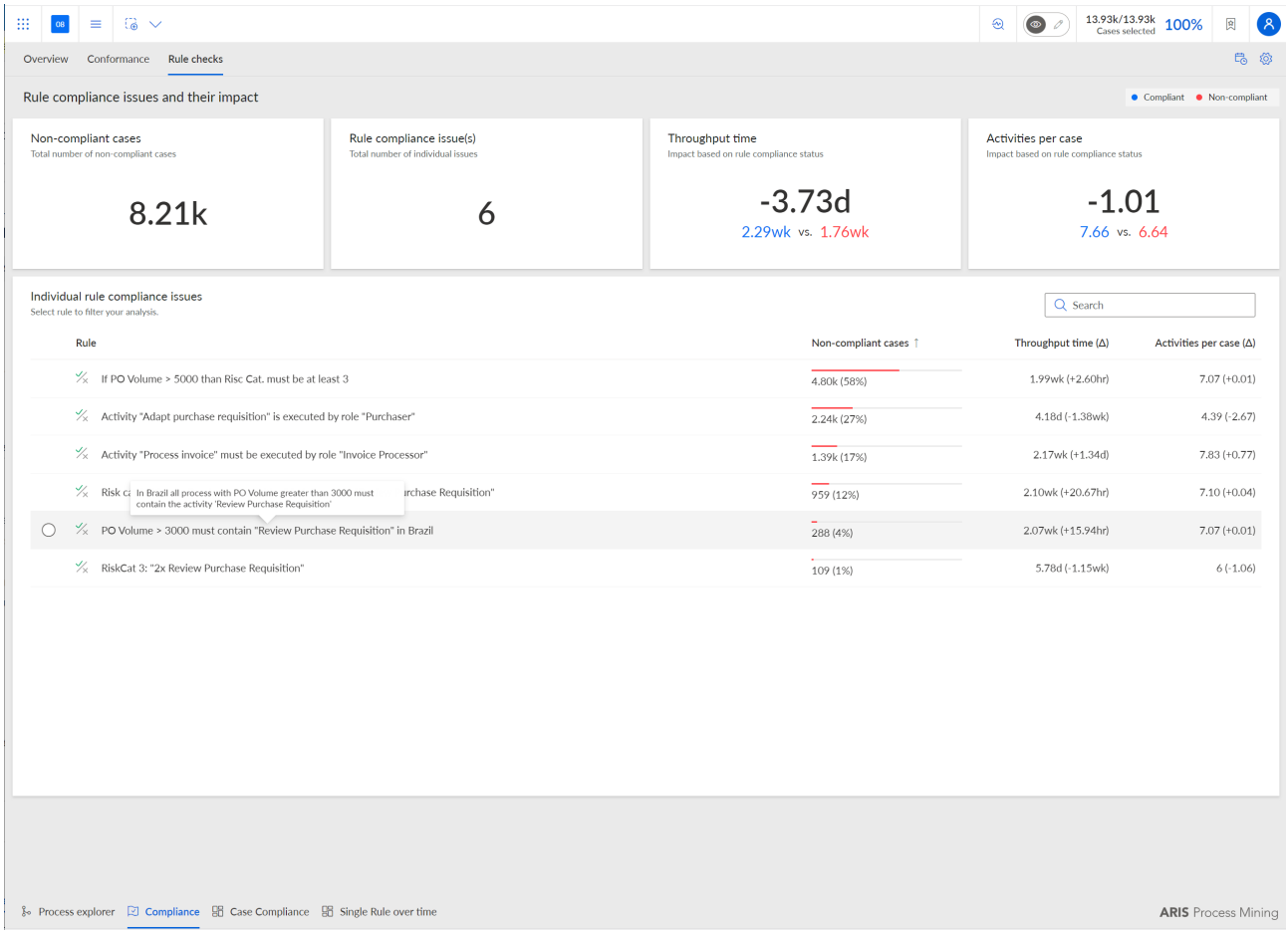
[ルールの確認] タブでは、個別のルール準拠問題を調べて、分析を詳しく調査できます。 ARIS Process Mining で識別された個別のルールを非準拠として選択して、対応するコンプライアンス指標を表示できます。

タブに、ダッシュボードの第 1 行に関連するコンプライアンス指標が表示されます。

- ルール非準拠ケースの総数
- ルール準拠問題の総数
- ルール準拠ケースとルール非準拠ケースのスループット時間
- ルール準拠ケース別とルール非準拠ケース別のアクティビティ

[個別のルール準拠に関する問題] テーブルには、個別のルール準拠に関する問題の一覧が、対応する指標値とともに表示されます。 状況に応じて 1 つまたは複数のルールを選択して、分析を絞り込むことができます。

例 6



1.3.5. 時間ディメンションと単位の設定

[ケースに関連するグラフの時間ディメンション]、[グラフのタイム スケール] を選択して、主要指標と現在のケースの値の単位を自動的に設定できます。

手順

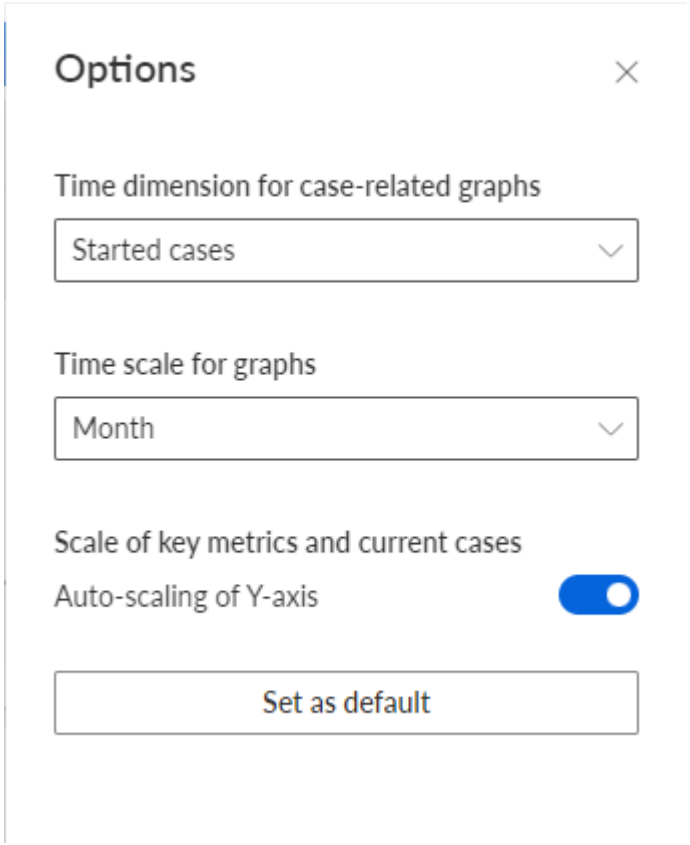
1. アプリのヘッダーで⚙ **[オプション]** をクリックします。 **[オプション]** パネルが開きます。
2. **[ケースに関連するグラフの時間ディメンション]** ドロップダウン メニューで、実行中のケースを分析するか、または開始されたケースを分析するかを選択できます。 開始されたケースは、開始時間が対象期間内にあるケースです。 実行中のケースは、対象期間中に完了していないケースです。

   たとえば、対象期間が 1 月の場合、開始されたケースは、1 月に開始されたすべてのケースです。 実行中のケースは、1 月に完了していないすべてのケースです。
3. **[グラフのタイム スケール]** ドロップダウン メニューで、グラフに表示される期間の単位を設定できます。
4. **[Y 軸の自動スケール]** オプションを有効にすると、Y 軸に表示される値の単位が自動的に設定されます。

5. 設定をデフォルトとして指定するには、**[デフォルトに設定]** をクリックします。 このオプションは、ここでオプションの 1 つが変更された場合に使用できます。

設定が適用されます。

例 7



1.3.6. 時間枠の選択

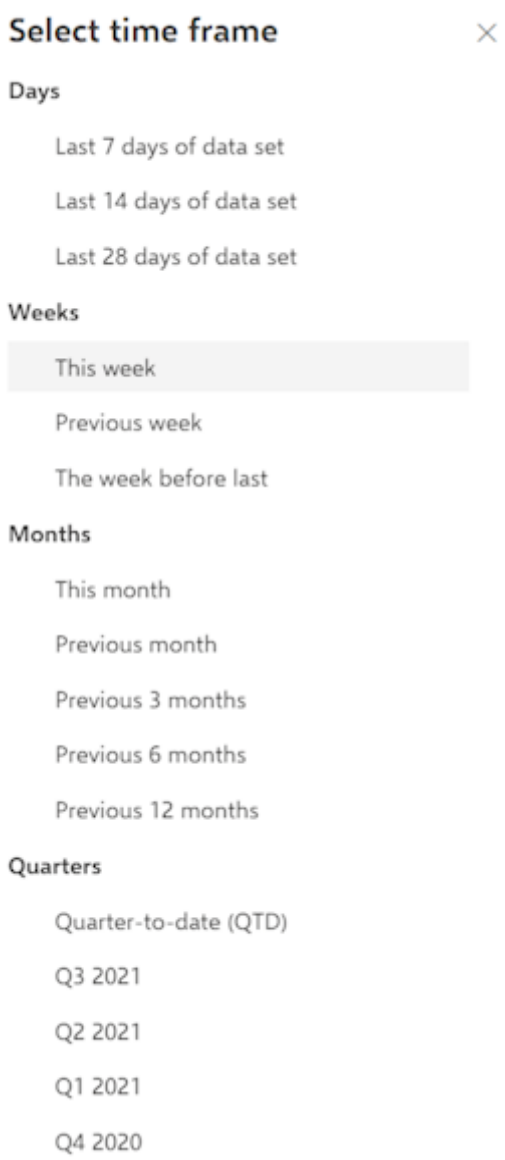
時間範囲を変更して、分析するデータをフィルタリングできます。

手順

1. アプリのヘッダーで **[時間枠]** をクリックします。 **[時間枠の選択]** パネルが開きます。
2. あらかじめ定義された時間範囲 (**[今週]** や **[前月]** など) を選択します。

設定が適用されます。

例 8



1.4. コンプライアンス関連分析基準の使用

さまざまなコンプライアンス関連分析基準を使用してプロセス適合分析を拡張できます。 それらの分析フィールドをディメンションまたは指標として、たとえばコンプライアンス分析にフィルターを適用するために使用できます。

ARIS Process Mining エディションが参照プロセスの複数選択 [30]をサポートしている場合は、さらに参照プロセス フィールドが利用できます。

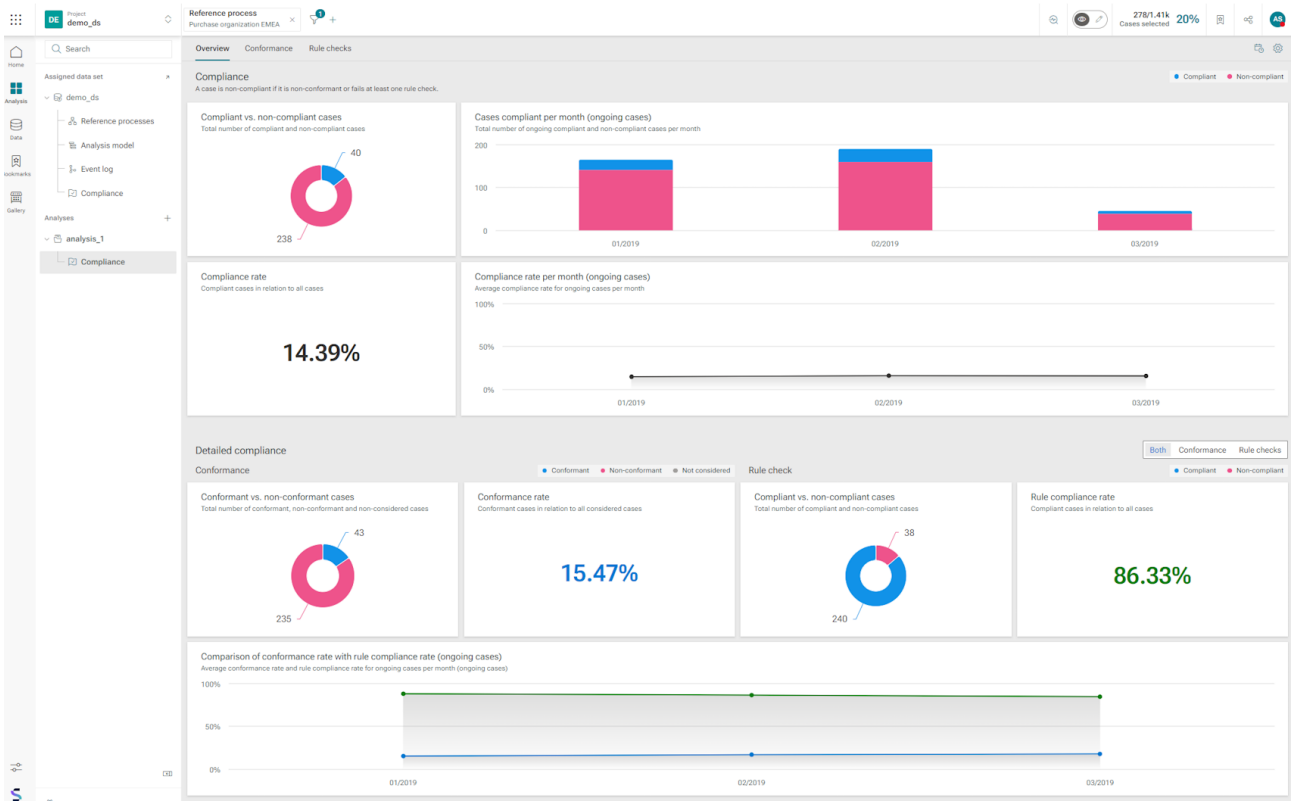
コンプライアンス関連分析基準

- ケース準拠: 値は **[準拠]** および **[非準拠]** です。
- ケースの適合: 値は **[適合]** および **[非適合]** です。
- フィットネス値: 計算値は 0 ～ 100 の間になります。

- 参照プロセス: 値は、適合チェックに使用される参照プロセスの名前です。
- ルール チェック: 値は **[失敗]** と **[合格]** です。

例 9

購買組織 EMEA のみで有効な参照プロセスがあるとします。 コンプライアンス分析をそれらのケースに制限するために、参照プロセス ディメンションにフィルターを設定できます。



2. 参照プロセス

参照プロセスは、BPMN または EPC のタイプのモデルを使用して ARIS でモデル化された目標プロセスです。 ARIS Process Mining では、参照プロセスと実際に実行されたプロセス インスタンスを比較し、関連する指標と次元を計算することができます。 参照プロセスは、プロセス適合チェックを実行して、**[プロセス モデル オーバーレイ]** アプリを使用する基本です。

ARIS Process Mining で参照プロセスを使用する前に、以下の手順を実行する必要があります。

1. 1 つ以上の参照プロセスを ARIS から ARIS Process Mining に転送します。これを実行するには、2 つの選択肢があります。
   - プロセス転送を ARIS Process Mining から開始します。 [17]
     EPC モデルを適合チェックや **[プロセス モデル オーバーレイ]** アプリの参照プロセスとして使用する場合は、ARIS Process Mining から転送を開始する必要があります。
   - プロセス転送を ARIS から開始します。 [20]
2. 転送したこの参照プロセスに対応するアクティビティ マッピングを作成します。 [22]

注記
プロセス適合チェックを実行するか **[プロセス モデル オーバーレイ]** アプリを使用する時に、参照プロセスがない、あるいは有効なアクティビティ マッピングがないというメッセージを受け取る場合は、さまざまな理由がその原因として考えられます。

- ARIS から参照プロセスがまだ転送されていません。
- 参照プロセスは利用可能ですが、それらに有効なアクティビティ マッピングがありません。

2.1. ARIS Process Mining から開始して参照プロセスを転送する

以下の手順では、ARIS Process Mining から開始して参照プロセスとしての BPMN または EPC のタイプのモデルを ARIS から ARIS Process Mining へ転送する方法を説明します。 参照プロセスは ARIS Process Mining にあるデータ セットに転送されます。

[プロセス モデル オーバーレイ] アプリに BPMN または EPC のタイプのプロセス モデルを使用できます。 プロセス適合チェック [4]は、両方のタイプのモデルもサポートします。

適合チェックに使用される論理の理解を高めるために、モデルは縮小された転送プロセスに変換されます。 この転送プロセスには、適合チェックに関連するオブジェクト タイプと接続線のみが含まれます。 転送プロセスで、ARIS Process Mining に送られたロジックを評価できます。 転送されたプロセスは別個に保存され、元のモデルに影響を与えません。

BPMN または EPC の参照プロセスを使用して適合チェックを実行する場合、その参照プロセスは ARIS Process Mining でサポートされる特定のモデル作成の原則 [26]に従う必要があります。 参照プロセスがこの表記原則に適合しない場合、エラー ログ モデルが作成されます。 無効な参照プロセスは ARIS Process Mining に転送されません。 エラー ログ モデルを開いて、エラーの説明を表示できます。 それから、元の BPMN または EPC のモデルを調整できます。

プロセス オーバーレイのみで使用される参照プロセスには、構文の制限はありません。

参照プロセスが複数のプールを含む BPMN モデルであれば、転送される 1 つのプールを選択できます。 転送モデルに含まれるのは、1 つのプールからの内容のみでなければいけません。

プールにコール アクティビティまたはサブプロセスが含まれている場合 (埋め込み、または接続済み) 、転送される関連要素を選択できます。 これは、ユーザーが 1 つのプールと、そのプールが埋め込まれたコール アクティビティやサブプロセスなどを含む要素を選択して、その要素が転送される階層モデル レベルを決定することを意味します。

参照プロセスが複数の開始イベントを含む EPC モデルであれば、開始イベントを選択できます。 開始イベントに接続されているサブモデルが ARIS Process Mining に転送されます。 EPC の終了イベントが別の EPC の開始イベントとしてのオカレンスであれば、接続背れている開始イベントを選択できます。 ファンクションが 2 つのイベントに囲まれ、それにアサインされている EPC 内でそれらのイベントが個別の開始イベントと終了イベントである場合、アサイン モデルが転送されるようファンクションを選択できます。

必要条件

- ARIS と ARIS Process Mining を組み合わせたディプロイメントを使用していること。
- ARIS で「デザイナー」または「分析者」以上のライセンスが割り当てられていること。
- ARIS データベースにある、選択されているリファレンス モデルのグループとサブグループの**「書込」**権限を持っていること。
- ARIS にある [ARIS Process Mining] グループとそのサブグループの [書込] 権限と [削除] 権限があります。
- ARIS Process Mining での適合分析用のデータ セットの**「編集」**以上の権限を持っていること。
- リファレンス モデルにあるオブジェクト オカレンスのオブジェクト定義は、**「読取」**権限のあるデータベース フォルダーにある必要があります。
- リファレンス モデルにあるオブジェクト定義は、選択されているメソッドとフィルターで許可されている必要があります。

手順

1. データ セットを開きます。
2. **[ナビゲーション]** パネルの [参照プロセス] をクリックします。 **[参照プロセス]** セクションが開きます。
3. **[プロセスの追加]** をクリックします。 **[モデルの選択]** ダイアログ ボックスが開きます。
4. データベースを選択します。
5. 参照プロセス、またはその一部を含むモデルを選択します。
   a. **[参照]** タブで、フォルダーを閲覧してプロセスを探すことができます。
   b. **[検索]** タブで、モデル名を入力してプロセスを探すことができます。
   c. **[選択]** をクリックします。 **[詳細の指定]** ダイアログ ボックスが開きます。

6. **[詳細の指定]** ダイアログ ボックスで、ターゲット データ セットと参照プロセスの使用が適合チェックまたはプロセス オーバーレイ用に指定されます。 選択したプロセスが転送されるのが初めての場合は、新しいプロセスが ARIS Process Mining に自動的に作成されます。 デフォルトでは、対応するオプションがあらかじめ選択されています。 選択したプロセスが ARIS Process Mining に既にある場合は、既存プロセスを上書きできます。
   a. ターゲット データ セットは、プロセスが ARIS Process Mining に転送されるデータ セットです。
   b. ARIS Process Mining で表示されるプロセス名を指定します。 デフォルトでは、ARIS で指定された名前があらかじめ設定されます。 既存プロセスを上書きして ARIS Process Mining からの転送を開始した場合は、プロセス名を変更できません。
   c. 対応する入力フィールドにオプションで説明を入力できます。
   d. 指定したターゲット データ セットにある既存プロセスを上書きするには、関連するオプションを有効にして、ドロップダウン リストからプロセスを選択します。 選択されているプロセスを表示するには、**[新規ウィンドウで開く]** ボタンをクリックします。
   e. ARIS Process Mining で適合チェックを実行する場合は、**[適合チェック]** を有効にします。 デフォルトでは **[プロセス オーバーレイ]** は有効にされていて無効にできません。 任意の参照プロセスを使用してプロセス オーバーレイを実行できます。 EPC を参照プロセスとして選択した場合は、**[適合チェック]** オプションが無効になります。
   f. **[次へ]** をクリックします。 [プロセスの設定] ダイアログ ボックスが開きます。

      リファレンス モデルがモデル作成の原則に一致しない場合は、エラー ダイアログ ボックスが開きます。 エラー ログ モデルを表示するには、**[詳細をモデルで表示]** をクリックします。 エラーの説明を表示するには、**[詳細を一覧として表示]** をクリックします。 プロセスを編集して、データ転送を再び開始できます。
7. [プロセスの設定] ダイアログ ボックスで、転送されるプロセス要素を選択できます。 含まれる要素は、階層一覧に表示されます。
   a. BPMN モデルの要素を選択します。

      プールに含まれる、選択可能な要素を表示するには、プール名の隣にある 〉 アイコンをクリックします。 選択された要素には、さらに下位要素が含まれる可能性があります。 デフォルトでは、モデルにある最初のプールがあらかじめ選択されています。 選択されているプールによっては、そのプールに含まれるコール アクティビティやサブプロセスなどを選択できます。

      一覧にある要素を選択します。 一覧に埋め込まれた要素を選択すると、親要素も自動的に選択されます。 プロセスがプロセス オーバーレイにのみ使用される場合は、埋め込まれた要素は ARIS にあるプロセス アサインメントを含まないが直接埋め込まれている場合のみ表示されます。

      [転送] をクリックします。 **[プロセスの転送]** ダイアログ ボックスが開き、プロセス データが ARIS Process Mining に転送されます。
   b. EPC モデルのファンクションを選択します。 イベントは表示されません。

      ファンクションの下位にあり、選択可能な要素を表示するには、ファンクション名の隣にある 〉 アイコンをクリックします。 表示されるファンクションには、さらに下位ファンクションが含まれる場合があります。 デフォルトでは、モデルにある第 1 レベルのファンクションがあらかじめ選択されています。 選択されているファンクションは黒色で強調表示されます。

      親ファンクションを選択すると、下位ファンクションも選択されます。 下位ファンクションを選択すると、親ファンクションは無効になります。

      [転送] をクリックします。 **[プロセスの転送]** ダイアログ ボックスが開き、プロセス データが ARIS Process Mining に転送されます。
8. **[プロセスの転送]** ダイアログ ボックスにはさまざまな続行オプションが用意されています。
   a. ARIS Process Mining を開いてアクティビティ マッピングを作成 [22]できます。 **[アクティビティ マッピングを開く]** をクリックします。
   b. ARIS Process Mining に転送されたプロセスを表示するには、**[転送モデルを開く]** をクリックします。 プロセスが ARIS のモデル エディターで表示されます。
   c. あとでアクティビティ マッピングを作成する場合は、**[閉じる]** をクリックします。

選択されたプロセスが ARIS Process Mining に転送され、データ セットに参照プロセスとして保存されます。

転送されたプロセスは、データ セットの **[参照プロセス]** セクションで利用でき、**[新規]** としてのラベルが付きます。 が付いた参照プロセスは適合チェックに利用できます。 黒フラグ ( ) が付いた参照プロセスは適合チェックに利用できます。 フラグがないプロセスは、適合チェックに利用できません。

すべての転送されたモデルとエラー ログ モデルは、**[ARIS Process Mining]** グループとそのサブグループに格納されます。 このグループは、ARIS データベースの **[メイン]** グループのサブグループです。 モデルは、必要に応じて調査できるように格納されます。

プロセスが ARIS Process Mining に転送されると、ARIS Process Mining でアクティビティ マッピングを作成 [22]できます。

2.2. ARIS から開始して参照プロセスを転送する

以下の手順では、ARIS から開始して参照プロセスを ARIS から ARIS Process Mining へ転送する方法を説明します。

プロセス適合チェック [4]またはプロセス モデル オーバーレイを実行するために、リファレンス モデルとしての BPMN モデルを ARIS から ARIS Process Mining に転送できます。 参照プロセスは ARIS Process Mining にあるデータ セットに転送されます。

監査可能性と、適合チェックに使用されるロジックの理解を高めるために、BPMN モデルは縮小された転送プロセスに変換されます。 この転送プロセスには、適合チェックに関連するオブジェクト タイプと接続線のみが含まれます。 転送プロセスで、ARIS Process Mining に送られたロジックを評価できます。 転送されたプロセスは別個に保存され、オリジナルの BMPN モデルに影響を与えません。

BPMN プロセスは、ARIS Process Mining でサポートされるモデル作成の原則 [26]に従う必要があります。 参照プロセスがこの表記原則に適合しない場合、エラー ログ モデルが作成されます。 無効な参照プロセスは ARIS Process Mining に転送されません。 エラー ログ モデルを開いて、エラーの説明を表示できます。 それから、オリジナルの BPMN モデルを調整できます。

BPMN モデルに複数のプールが含まれる場合は、転送される 1 つのプールを選択できます。 転送モデルに含まれるのは、1 つのプールからの内容のみでなければいけません。

プールにコール アクティビティまたはサブプロセスが含まれている場合 (埋め込み、または接続済み) 、転送される関連要素も選択できます。 これは、ユーザーが 1 つのプールと、そのプールが埋め込まれたコール アクティビティやサブプロセスなどを含む要素を選択して、その要素が転送される階層モデル レベルを決定することを意味します。

必要条件

- ARIS で「デザイナー」または「分析者」以上のライセンスが割り当てられていること。
- ARIS データベースにある、選択されているリファレンス モデルのグループとサブグループの**「書込」**権限を持っていること。
- ARIS にある **[ARIS Process Mining]** グループとそのサブグループの **「書込」**権限と **「削除」 権限があります。**
- ARIS Process Mining での適合分析用のデータ セットの**「編集」**以上の権限を持っていること。
- リファレンス モデルにあるオブジェクト オカレンスのオブジェクト定義は、**「読取」**権限のあるデータベース フォルダーにある必要があります。
- リファレンス モデルにあるオブジェクト定義は、選択されているメソッドとフィルターで許可されている必要があります。

手順

1. ARIS で **BPMN** プロセス モデルを開きます。
2. **[モデル]** タブを開きます。
3. **ARIS Process Mining** アイコンをクリックします。
4. ドロップダウン メニューの **[参照プロセスとしてプロセス マイニングへ転送]** をクリックします。 **[詳細の指定]** ダイアログ ボックスが開きます。
5. **[詳細の指定]** ダイアログ ボックスで、ターゲット データ セットと参照プロセスの使用が適合チェックまたはプロセス オーバーレイ用に指定されます。 選択したプロセスが転送されるのが初めての場合は、新しいプロセスが ARIS Process Mining に自動的に作成されます。 デフォルトでは、対応するオプションがあらかじめ選択されています。 選択したプロセスが ARIS Process Mining に既にある場合は、既存プロセスを上書きできます。
   a. ターゲット データ セット のドロップダウン メニューで、モデルが ARIS Process Mining に転送されるデータ セットを選択します。 対応する編集権限があるデータ セットのみ表示されます。
   b. ARIS Process Mining で表示されるモデル名を指定します。 デフォルトでは、ARIS で指定された名前があらかじめ設定されます。
   c. 対応する入力フィールドにオプションで説明を入力できます。
   d. 指定したターゲット データ セットにある既存プロセスを上書きするには、関連するオプションを有効にして、ドロップダウン リストからプロセスを選択します。 選択されているプロセスを表示するには、**[新規ウィンドウで開く]** ボタンをクリックします。
   e. ARIS Process Mining で適合チェックを実行する場合は、**[適合チェック]** を有効にします。 デフォルトでは **[プロセス オーバーレイ]** は有効にされていて無効にできません。 任意の参照プロセスを使用して **[プロセス オーバーレイ]** アプリを使用できます。
   f. **[次へ]** をクリックします。 [プロセスの設定] ダイアログ ボックスが開きます。

      リファレンス モデルがモデル作成の原則に一致しない場合は、エラー ダイアログ ボックスが開きます。 エラー ログ モデルを表示するには、**[詳細をモデルで表示]** をクリックします。 エラーの説明を表示するには、**[詳細を一覧として表示]** をクリックします。 プロセスを編集して、データ転送を再び開始できます。
6. **[プロセスの設定]** ダイアログ ボックスで、転送されるプール、アクティビティ、またはサブプロセスを選択できます。 含まれる要素は、階層一覧に表示されます。
   a. プール名の隣にある ﹀ アイコンをクリックして、ドロップダウン メニューにあるプールを選択します。 デフォルトでは、モデルにある最初のプールがあらかじめ選択されています。 選択されているプールによっては、そのプールに含まれるコール アクティビティやサブプロセスなどを選択できます。
   b. プールに含まれる、選択可能な要素を表示するには、プール名の隣にある ﹥ アイコンをクリックします。 選択された要素には、さらに下位要素が含まれる可能性があります。
   c. 一覧にある要素を選択します。 一覧の深くにある要素を選択すると、親要素も自動的に選択されます。 プロセスがプロセス オーバーレイにのみ使用される場合は、埋め込まれた要素は ARIS にあるプロセス アサインメントを含まないが直接埋め込まれている場合のみ表示されます。
   d. **[転送]** をクリックします。 **[プロセスの転送]** ダイアログ ボックスが開き、プロセス データが ARIS Process Mining に転送されます。
7. **[プロセスの転送]** ダイアログ ボックスにはさまざまな続行オプションが用意されています。
   a. ARIS Process Mining を開いてアクティビティ マッピングを作成 [22]できます。 **[アクティビティ マッピングを開く]** をクリックします。
   b. ARIS Process Mining に転送されたプロセスを表示するには、**[転送モデルを開く]** をクリックします。 プロセスが ARIS のモデル エディターで表示されます。
   c. あとでアクティビティ マッピングを作成する場合は、**[閉じる]** をクリックします。

BPMN プロセスが ARIS Process Mining に転送され、データ セットに参照プロセスとして保存されます。 転送されたプロセスは、データ セットの **[参照プロセス]** セクションで利用でき、**[新規]** としてのラベルが付きます。

すべての転送されたモデルとエラー ログ モデルは、**[ARIS Process Mining]** グループとそのサブグループに格納されます。 このグループは、ARIS データベースの **[メイン]** グループのサブグループです。 モデルは、必要に応じて調査できるように格納されます。

プロセスが ARIS Process Mining に転送されると、ARIS Process Mining でアクティビティ マッピングを作成[22]できます。

2.3. アクティビティ マッピングの作成

参照プロセスに従って ARIS Process Mining でプロセス フローを評価するためには、参照プロセスのモデル化されたタスクとソース システムのアクティビティをマッピングする必要があります。

マッピングは、モデル化されたタスクの名前とソース システムのアクティビティの名前に基づいて作成されます。 参照プロセスでモデル化された複数のタスクが同じ名前を持つ場合は、1 つのタスクに減らされ、その後は 1 つとして処理されます。

ソース システムが提供するアクティビティの名前が、ARIS でモデル化されたタスクの名前と異なる場合があります。 モデル化されたタスクと提供されたアクティビティの名前が同じ場合は、それらは自動的にマッピングされます。

分析モデルで使用される、現在アクティブ化されているイベント ログを変更しても、現在のアクティビティ マッピングはそのままで変わりません。 ただし、現在のアクティビティ マッピングに変更は表示されます。たとえば、変更したイベント ログで削除されたアクティビティは、アクティビティ マッピングでは **[ユーザーにより作成されたアクティビティ]** として表示されます。

必要条件

- データがソース システムからデータ セットに読み込まれていること。
- 参照プロセスをデータ セットに転送していること。
- 適合分析用のデータ セットの「**編集**」以上の権限を持っていること。

手順

1. アクティビティ マッピングを作成するプロセスを含むデータ セットを開きます。
2. [データ セット] パネルの **[参照プロセス]** をクリックします。 **[参照プロセス]** セクションが **[参照プロセス]** ページとともに開きます。 ページには、データ セットに利用できるすべての参照プロセスの一覧が表示されます。
3. 参照プロセスの名前をクリックします。 マッピングを作成するためのページが開きます。
4. 同じ名前のタスクとアクティビティを自動的にマッピングするには、🔄 **[自動マッピング]** をクリックします。 同じ名前が存在しない場合は、このオプションは使用できません。
5. タスクとアクティビティを手動でマッピングできます。
   a. まず、両側のいずれかでタスクまたはアクティビティを 1 つ選択します。 選択した要素は一覧の上部に配置され、ほかのすべての要素はグレーになります。
   b. 反対側で、最初の選択項目にマッピングする要素を選択します。 マッピングされた要素は接続され、マッピングされていない要素の下で、同一線上に配置されます。
   c. マッピングをやり直すには、マウスポインターをマッピング済み要素の上に置き、↩ **リセット** アイコンをクリックします。

6. タスクやアクティビティに **[無視]** のマークを付けることができます。 マークが付いた要素は適合分析に使用されません。 マウス ポインターを要素の上に移動して、**[無視済みとしてマーク]** をクリックします。 要素に取り消し線が表示されます。

   選択をやり直すには、マウスポインターを要素の上に置き、**[リセット]** アイコンをクリックします。
7. アクティビティに **[不要]** のマークを付けることができます。 マークが付いた要素は、分析で、**[不要]** な問題のタイプ [7]であるとみなされます。 マウス ポインターを要素の上に移動して、**[不要なものとしてマークを付ける]** をクリックします。 要素に取り消し線が表示されます。

   選択をやり直すには、マウスポインターを要素の上に置き、**[リセット]** アイコンをクリックします。
8. タスクがアクティビティにマッピング済みであり、そのマッピングを使用できるかどうかを確認できます。
   a. マウス ポインターをタスクの上に移動します。
   b. **[他のマッピングの表示]** ボタンをクリックします。 既存のマッピングが利用できる場合、表示されます。
   c. マッピングを選択します。 選択したマッピングがタスクに割り当てられます。
9. 分析にタスクを含めるが合致するアクティビティがまだない場合は、まだ存在しない新しいアクティビティをデータ セットに追加できます。
   a. **[+ アクティビティの追加]** をクリックします。
   b. 名前を入力してから、**[追加]** をクリックします。

      アクティビティの一覧に新しいアクティビティが追加されます。 アクティビティを削除するには、マウス ポインターをアクティビティの上に置き、**[削除]** アイコンをクリックします。
10. データ セット用のマッピングを保存および有効化するには、**[マッピングの有効化]** をクリックします。
11. 必要に応じて、**[再計算]** をクリックして適合を (再) 計算します。 ARIS Process Mining でケースの各適合が計算され、データ セットに読み込まれます。

アクティビティ マッピングが作成され、データ セットがロードされました。

[参照プロセス] ページに戻ります。 参照プロセスの **[マッピング]** 状態が **[完全]** に設定されます。

プロセスの適合を分析するために **[コンプライアンス]** [6] アプリでマッピングを使用するには、 [6]参照プロセスを選択してから **[適合チェックに選択]** をクリックします。

2.4. アクティビティ マッピングの編集

アクティビティ マッピングを編集できます。 たとえば、タスクとアクティビティのマッピングを変更したり、新しいアクティビティをマッピングに追加したりします。

分析モデルで使用される、現在アクティブ化されているイベント ログを変更しても、現在のアクティビティ マッピングはそのままで変わりません。 ただし、現在のアクティビティ マッピングに変更は表示されます。 たとえば、変更したイベント ログで削除されたアクティビティは、アクティビティ マッピングでは **[ユーザーにより作成されたアクティビティ]** として表示されます。

必要条件

アクティビティ マッピングを作成していること。 [22]

手順

1. 参照プロセスと編集するマッピングを含むデータ セットを開きます。

2. [データ セット] パネルの **[参照プロセス]** をクリックします。 **[参照プロセス]** セクションが **[参照プロセス]** ページとともに開きます。 ページには、データ セットに利用できるすべての参照プロセスの一覧が表示されます。
3. 参照プロセスの名前をクリックします。 マッピングを使用するページが開きます。
4. マッピングをやり直すには、マウスポインターをマッピング済み要素の上に置き、**リセット** アイコンをクリックします。
5. タスクから **[無視]** ラベルを削除するには、マウス ポインターをタスクの上に移動して、**[リセット]** 設定アイコンをクリックします。
6. アクティビティから **[無視]** ラベルまたは **[不要]** を削除するには、マウス ポインターをアクティビティの上に移動して、**[リセット]** 設定アイコンをクリックします。
7. 同じ名前のタスクとアクティビティを自動的にマッピングするには、**[自動マッピング]** をクリックします。 同じ名前が存在しない場合は、このオプションは使用できません。
8. タスクとアクティビティを手動でマッピングできます。
   a. まず、両側のいずれかでタスクまたはアクティビティを 1 つ選択します。 選択した要素は一覧の上部に配置され、ほかのすべての要素はグレーになります。
   b. 反対側で、最初の選択項目にマッピングする要素を選択します。 マッピングされた要素は接続され、マッピングされていない要素の下で、同一線上に配置されます。
9. タスクやアクティビティに **[無視]** のマークを付けることができます。 マークが付いた要素は適合分析に使用されません。 マウス ポインターを要素の上に移動して、**[無視済みとしてマーク]** をクリックします。 要素に取り消し線が表示されます。
10. アクティビティに **[不要]** のマークを付けることができます。 マークが付いた要素は、分析で、**[不要]** な問題のタイプ [7]であるとみなされます。 マウス ポインターを要素の上に移動して、**[不要なものとしてマークを付ける]** をクリックします。 要素に取り消し線が表示されます。
11. タスクがアクティビティにマッピング済みであり、そのマッピングを使用できるかどうかを確認できます。
    a. マウス ポインターをタスクの上に移動します。
    b. **[他のマッピングの表示]** ボタンをクリックします。 既存のマッピングが利用できる場合、表示されます。
    c. マッピングを選択します。 選択したマッピングがタスクに割り当てられます。
12. 分析にタスクを含めるが合致するアクティビティがまだない場合は、まだ存在しない新しいアクティビティをデータ セットに追加できます。
    a. **[+ アクティビティの追加]** をクリックします。
    b. 名前を入力してから、**[追加]** をクリックします。
       アクティビティの一覧に新しいアクティビティが追加されます。 アクティビティを削除するには、マウス ポインターをアクティビティの上に置き、**[削除]** アイコンをクリックします。
13. データ セット用のマッピングを保存および有効化するには、**[マッピングの更新]** をクリックします。
14. 必要に応じて、**[再計算]** をクリックして適合を (再) 計算します。 ARIS Process Mining でケースの各適合が計算され、データ セットに読み込まれます。

アクティビティ マッピングが作成され、データ セットが読み込まれました。

[参照プロセス] ページに戻ります。 参照プロセスの **[マッピング]** 状態が **[変更済み]** に設定されます。

プロセスの適合を分析するために **[コンプライアンス]** [6] アプリでマッピングを使用するには、 [6]参照プロセスを選択してから **[適合チェックに選択]** をクリックします。

2.5. プロセス詳細の表示

転送された参照プロセスと対応する下位プロセスなど、プロセス詳細を表示できます。 たとえば、転送された参照プロセスを表示または編集するためにプロセスを開くことができます。

手順

1. 参照プロセスを含むデータ セットを開きます。
2. [データ セット] パネルの **[参照プロセス]** をクリックします。 **[参照プロセス]** セクションが **[参照プロセス]** ページとともに開きます。 ページには、データ セットに利用できるすべての参照プロセスの一覧が表示されます。
3. 参照プロセスが選択します。
4. ⓘ **詳細** アイコンをクリックします。 マッピング状態、含まれるプロセス タスクの数、説明 (存在する場合)、参照モデルに含まれるモデルの一覧の表示など、選択されているプロセスに関する詳細情報があるパネルが表示されます。
5. 一覧にあるモデル名をクリックします。

選択したモデルが、ARIS モデル エディターで開きます。

2.6. 参照プロセスの置換

たとえば転送された参照プロセスが ARIS にあって変更された場合や、異なるサブプロセスを使用する場合は、置換できます。

必要条件

1 つ以上の参照プロセスをデータ セットに追加していること。 [17]

手順

1. 参照プロセスを含むデータ セットを開きます。
2. [データ セット] パネルの **[参照プロセス]** をクリックします。 **[参照プロセス]** セクションが **[参照プロセス]** ページとともに開きます。 ページには、データ セットに利用できるすべての参照プロセスの一覧が表示されます。
3. 参照プロセスが選択します。
4. **[置換]** をクリックします。 転送するプロセスの **[詳細の指定]** ダイアログ ボックスが開きます。
5. 別のモデルを選択する場合は、**[戻る]** をクリックしてモデルを選択します。
6. **「参照モデルの転送」[17]** の章で説明されているようにプロセス転送を実行します。 [17]の章で説明されているようにプロセス転送を実行します。

参照プロセスを置換しました。

マッピングの状態が **[変更済み]** に変わり、置換されたプロセスに対応するアクティビティ マッピングを更新する必要があるので注意してください。

2.7. 適合チェック用参照プロセスの有効化

既に転送済みで適合チェックに利用できない参照プロセスを使用する場合は、まず **[適合チェック]** オプションを有効にする必要があります。

必要条件

1 つ以上の参照プロセスを ARIS から転送していること。 [17]

手順

1. 参照プロセスを含むデータ セットを開きます。
2. [データ セット] パネルの **[参照プロセス]** をクリックします。 **[参照プロセス]** セクションが **[参照プロセス]** ページとともに開きます。 ページには、データ セットに利用できるすべての参照プロセスの一覧が表示されます。
3. プロセスを選択します。
4. **[置換]** をクリックします。 転送するプロセスの **[詳細の指定]** ダイアログ ボックスが開きます。
5. **[適合チェック]** オプションを有効にします。
6. **[次へ]** をクリックします。 **[プロセスの設定]** ダイアログ ボックスが開きます。
7. **[転送]** をクリックします。 **[プロセスの転送]** ダイアログ ボックスが開きます。
8. **[閉じる]** をクリックします。 **[参照プロセス]** ページが再び表示されます。
9. 必要な場合は、**[再計算]** をクリックします。

選択した参照プロセスは適合チェックに利用でき、白フラグ (⚑) が付きます。

マッピングの状態が **[変更済み]** に変わり、置換されたプロセスに対応するアクティビティ マッピングを更新する必要があるので注意してください。

2.8. モデル作成の原則

ARIS で作成されるリファレンス モデル [17]は、以下のモデル作成の原則に適合する必要があります。 これらの原則は BPMN 図で説明されていますが、EPC リファレンス モデルにも同様に適用されます。

コンテキスト	表記規則	理由/例
モデル タイプ	現在サポートされている BPMN と EPC のモデルは以下のとおりです。 ▪ Enterprise BPMN collaboration diagram ▪ Enterprise BPMN process diagram ▪ BPMN process diagram (BPMN 2.0) ▪ BPMN collaboration diagram (BPMN 2.0) ▪ EPC、EPC (列表示)、EPC (行表示)、EPC (テーブル表示)、EPC (水平テーブル表示)、EPC (マテリアル フロー)	

コンテキスト	表記規則	理由/例
オブジェクトタイプ	オブジェクト タイプは以下に絞られます。 ▪ 開始イベント ▪ 中間イベント ▪ 終了イベント ▪ アクティビティ/タスク ▪ 包含的ゲートウェイ ▪ 排他的ゲートウェイ ▪ 並行ゲートウェイ	
接続線タイプ	接続線タイプは、[シーケンス フロー] 接続線に絞られます。	
プール	1 つのプールからのアイテムのみが対象になります。	
レーン	すべてのレーンは統合されます。	
開始イベント	[開始イベント] シンボルを持つ開始イベントのみが許可されます。 許可される開始イベントは 1 つのみです。 開始イベントの出力接続線は 1 本のみです。 複数の入れ子の開始イベントの構造は簡略化され、部分的に転送モデルに統合されます。	
タスク	タスクの入力接続線は 1 本のみ、出力接続線も 1 本のみです。 開始イベントから何らかの形で到達するタスクのみが対象になります (孤立タスクは対象外です)。	
終了イベント	[終了イベント] シンボルを持つ終了イベントのみが許可されます。 複数の終了イベントが許可されます。 終了イベントへの入力接続線は 1 本のみです。 包含的ゲートウェイの場合、「クローズド ブラケット」のルールに従う必要があります (以下参照)。	
埋め込み (サブ) プロセスの開始イベントと終了イベント	[開始イベント] シンボルを持つ開始イベントのみが許可されます。 許可される開始イベントは 1 つのみです。 許可される終了イベントは 1 つのみです。 [終了イベント] シンボルを持つ終了イベントのみが許可されます。 中間イベントの結果。 埋め込みサブプロセスは参照プロセスに含まれますが、アサインされたサブプロセスは、同じモデル上にないため含まれません。 埋め込みサブプロセスを折りたたみ、あとで展開すると埋め込みサブプロセスのように表示されますが、アサインされたサブプロセスに変換されます。	
中間イベント	中間イベントは許可されますが、転送モデル内で除去されます。	
分岐ゲートウェイ	分岐ゲートウェイには、1 本の入力接続線と複数の出力接続線があります。	
合流ゲートウェイ	合流ゲートウェイには、複数の入力接続線と 1 本の出力接続線があります。	

コンテキスト	表記規則	理由/例
サイクルとループ	自己ループは許可されません。 サイクルは、以下のルールに従って許可されます。 分岐ゲートウェイと合流ゲートウェイのシーケンスは、通常、逆転する (モデルの最初が合流ゲートウェイで、2 番めが分岐ゲートウェイ) ため、排他的ゲートウェイが推奨されます。 具体的には、包含的ゲートウェイを使用するそのようなループがあるモデルは ARIS Process Mining に転送されず、並行ゲートウェイを使用するループがあるモデルには適合プロセスはありません。 サイクル内で開いたすべてのゲートウェイは、そのサイクル内で閉じなければなりません。	
OR ゲートウェイ ▪ クローズド ブラケット ▪ 入れ子のゲートウェイ ブラケット	包含的合流ゲートウェイ (OR ゲートウェイ) と次の先行分岐ゲートウェイが「クローズド ブラケット」を作成します。 「クローズド ブラケット」ごとに、分岐ゲートウェイと合流ゲートウェイは、接続線の重複も交差もなしに両者の間で移動し、分岐を完了しなければなりません。 各合流ゲートウェイは、開いたすべての分岐を次の先行分岐ゲートウェイで閉じなければなりません。 すべての開いた分岐は、「クローズド ブラケット」スタイルで閉じなければなりません。 「クローズド ブラケット」スタイルの分岐と合流のセットは、入れ子にすることができます。	
OR ゲートウェイ 2 番めの出口があるブラケット	包含的合流ゲートウェイ (OR ゲートウェイ) と次の先行分岐ゲートウェイ (クローズド ブラケット) は、プロセスの「クローズド ブラケット」を維持するために、2 番めの出口を設けることはできません。 このようなモデル化は、正確な意味では識別されないが、非適合として提示される適合ケースになる可能性があります。	

3. コンプライアンス

3.1. 適合チェックの管理

プロセス適合チェック [4]では、ケースの構造を 1 つまたは複数の参照プロセスと比較して、関連する指標とディメンションを計算します。

使用中の ARIS Process Mining バージョンに応じて、参照プロセスを 1 つのみ [29]選択するか、複数の参照プロセスを選択 [30]して、適合チェックを実行できます。

3.1.1. 1 つの参照プロセスの適合チェック

適合チェックを実行するために参照プロセスを選択します。

必要条件

1 つ以上の参照プロセスを適合チェックに利用できるデータ セットに追加していること。 [17]

プロセスには、有効化されたアクティビティ マッピングが必要です。 [22]

手順

1. 参照プロセスを含むデータ セットを開きます。
2. [データ セット] パネルの **[参照プロセス]** をクリックします。 **[参照プロセス]** セクションが **[参照プロセス]** ページとともに開きます。 ページには、データ セットに利用できるすべての参照プロセスの一覧が表示されます。
3. 白フラグ ( ) が付いた参照プロセスを選択します。 これは、そのプロセスが適合チェックに利用できることを意味します。 黒フラグ (黒フラグ) が付いた参照プロセスは適合チェックに利用できます。 フラグがないプロセスは、適合チェックに利用できません。
4. **[適合チェックに選択]** をクリックします。
5. 適合チェックに利用できないプロセスを使用する場合は、まず **[適合チェック]** オプションを有効にする必要があります。
   a. プロセスを選択します。
   b. **[置換]** をクリックします。 転送するプロセスの **[詳細の指定]** ダイアログ ボックスが開きます。
   c. **[適合チェック]** オプションを有効にします。
   d. **[次へ]** をクリックします。 **[プロセスの設定]** ダイアログ ボックスが開きます。
   e. **[転送]** をクリックします。 **[プロセスの転送]** ダイアログ ボックスが開きます。
   f. **[閉じる]** をクリックします。 **[参照プロセス]** ページが再び表示されます。
   g. プロセスを選択して、**[適合チェックに選択]** をクリックします。
6. 必要な場合は、**[再計算]** をクリックします。

適合チェックを実行するために参照プロセスを選択しました。

3.1.2. 複数の参照プロセスの適合チェック

複数の参照プロセスに適合チェックを実行するために複数の参照プロセス [30]を選択して、フィルターを定義 [31]し、どの参照プロセスがどのケースに使用されているかを判断できます。これは分析の正確性を高めます。

ライセンス制限

- 適合チェック用参照モデルの複数選択は、ARIS Process Mining **Advanced** と **Enterprise** のみ利用できます。 ARIS Process Mining **Advanced** と **Enterprise** では、複数の参照プロセスを使用するプロジェクトをエクスポートおよびインポートすることもできます。
- ARIS Process Mining **Basic** では、適合チェック用参照プロセスを 1 つだけ選択できます。 つまり、適合設定に複数の参照プロセスを追加することはできません。 この制限は、ソリューションからの参照プロセスのインポートにも適用されます。

3.1.2.1. 適合チェックに複数のプロセスを選択する

適合チェックを実行するために 1 つまたは複数の参照プロセスを選択できます。

必要条件

ARIS Process Mining **Advanced** または **Enterprise** を使用していること。

1 つ以上の参照プロセスをデータ セットに追加していること。 [17]

参照プロセスは適合チェックに利用可能である必要があります。 [17]

参照プロセスには、有効化されたアクティビティ マッピングが必要です。 [22]

手順

1. 参照プロセスを含むデータ セットを開きます。
2. [データ セット] パネルの **[コンプライアンス]** をクリックします。 **[コンプライアンス]** セクションが **[適合]** ページとともに開きます。
3. **[追加]** をクリックします。 参照プロセスを選択するためのダイアログ ボックスが開きます。 このダイアログ ボックスには、適合チェックに利用できるプロセスの一覧が表示され、そのマッピングは **[完了]** または **[変更済み]** に設定されます。
4. 1 つまたは複数の参照プロセスを選択して、**[追加]** をクリックします。 選択した参照プロセスの一覧が **[適合]** ページに表示されます。
   追加されたプロセスの状態は **[非アクティブ]** です。 これは、そのプロセスが適合チェックにまだ利用されていないことを意味します。
5. **[適合]** ページで 1 つまたは複数の参照プロセスを選択します。
6. **[アクティブにする]** をクリックします。
7. 必要な場合は、**[再計算]** をクリックします。 参照プロセスをアクティブにするか、アクティブ化された参照プロセスの設定を変更する場合は、再計算をトリガーする必要があります。
8. 一覧にある参照プロセスの順序は、計算の優先順位を決定します。 一覧にある参照プロセスを移動するには、プロセスを選択してから **[上へ]** または **[下へ]** をクリックします。 また、マウス ポインターで一覧にある線をドラッグ アンド ドロップして移動することもできます。
   詳細については、「フィルターを参照プロセスに定義する」 [31]の章を参照してください。

適合チェック用参照プロセスを選択しました。 プロセスに **[アクティブ]** 状態のラベルが付きます。

適合チェック用プロセスを非アクティブにするには、そのプロセスを選択して **[非アクティブにする]** をクリックします。 異なる状態の複数の参照プロセスを選択した場合は、**[アクティブにする]** オプションのみが利用できます。

さらにプロセス詳細を表示できます。 アプリでコンポーネントを選択してから、ⓘ **[詳細]** アイコンをクリックします。 選択したプロセスに関する詳細情報を含むパネルが表示されます。

3.1.2.2. 参照プロセスにフィルターを定義する

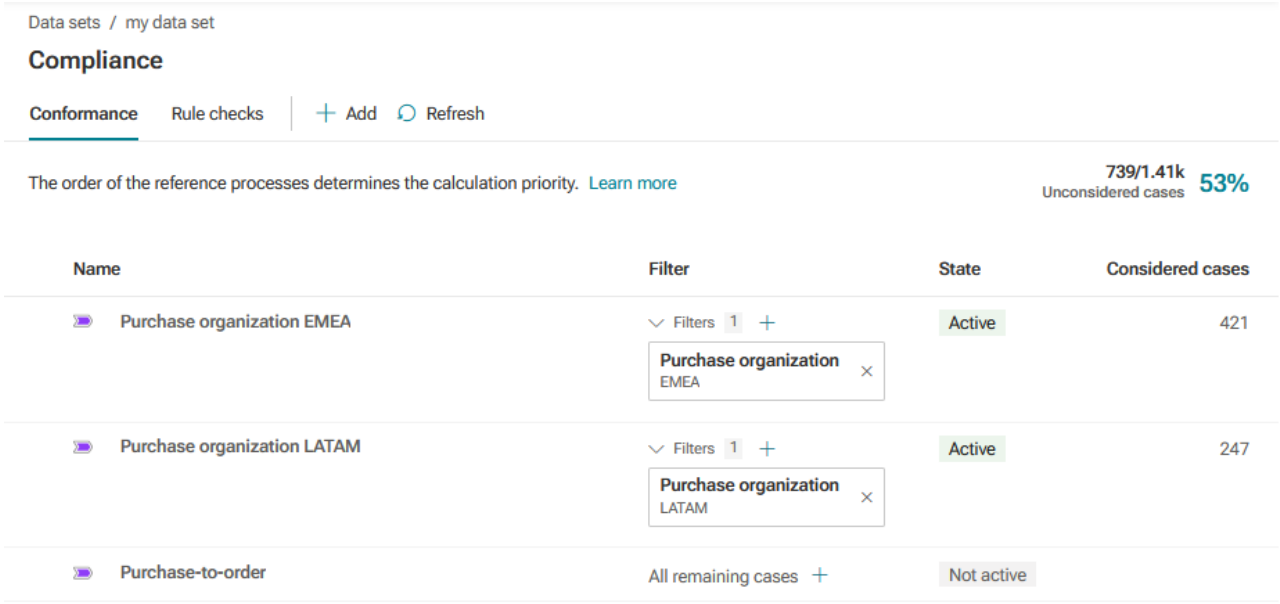
参照プロセスに 1 つまたは複数のフィルターを定義して、どの参照プロセスがどのケースに使用されるかを決定できます。 デフォルトでは、参照プロセスのフィルターに **[すべての残りのケース]** が設定されています。 これは、その参照プロセスとの適合についてすべてのケースがチェックされることを意味します。 ただし、それぞれの参照プロセスにさらに詳細なフィルターを定義できます。

参照プロセスの順序は、計算の優先順位を決定します。 これは、一覧にある参照プロセスとそのフィルターが上から下に処理されることを意味します。 一覧で最初の参照プロセスに対応するフィルターが適用されたケースは、一覧にある以降の参照プロセスの対象になりません。 これが 2 番目以降の参照プロセスのフィルターが適用されたケースに適用されます。 最初の参照プロセスのフィルターに **[すべての残りのケース]** が設定されていると、すべてのケースが最初の参照プロセスに対してチェックされます。 以降のすべての参照プロセスは適合チェックの対象外になります。 対象となったケースの数はアクティブ化された各参照プロセスごとに表示されます。 対象外のケースの合計数は一覧の上に表示されます。

一覧にある参照プロセスの順序を変更して、計算の優先順位 [30]を設定できます。

例 10

この例は 2 つのアクティブ化された参照プロセスを示したものです。1 つのプロセスは EMEA 組織からのケースのみを対象とするフィルターを使用し、2 つ目のプロセスは LATAM 組織からのケースのフィルターを使用します。 デフォルト フィルター (**[すべての残りのケース]**) を使用する 3 つ目の参照プロセスは、アクティブ化されていないため使用されません。 各参照プロセスの対象となるケースの数と、適合がチェックされないケースの合計数も表示されます。



必要条件

適合設定に 1 つまたは複数の参照プロセスを追加していること。 [30]

手順

1. **[準拠] [30]** セクションの **[適合] [30]** ページ [30]を 開きます。 [30] [30]の **[適合] [30]** ページ [30]を 開きます。 [30]
2. 参照プロセスの **[+ フィルターの追加]** をクリックします。 **[フィールド フィルターの追加]** ダイアログ ボックスが開きます。
3. フィールド フィルターを作成します。
   a. **[フィールド]** パネルでフィールドを選択します。
      [ケース準拠]、**[ケースの適合]**、**[参照プロセス]**、**[フィットネス値]** のフィールドが適合チェックで計算されます。フィルターの作成には使用できません。
   b. フィルター条件を定義します。 選択したフィールドに応じて、利用可能なオプションは異なります。
   c. **[追加]** をクリックします。
      フィルターが参照プロセスに追加されます。 参照プロセスに追加されたフィルターの数が表示されます。
4. 参照プロセスに定義されたフィルターを表示するには、〉アイコンをクリックします。
5. フィルターを編集するには、目的のフィルターをクリックします。 対応するダイアログ ボックスが開きます。
6. 必要な場合は、**[再計算]** をクリックします。 参照プロセスをアクティブにするか、アクティブ化された参照プロセスの設定を変更する場合は、再計算をトリガーする必要があります。

参照プロセス用のフィルターを作成しました。

参照プロセスのすべてのフィルターを削除するには、マウス ポインターを参照プロセスの上に移動して、**[... その他のオプション]**、↺**[フィルターのリセット]** の順にクリックします。

> **注記**
> 上記のフィールドを 1 つまたは複数作成してフィールド フィルターを作成し、参照プロセスを [アクティブ] に設定すると、フィルター ダイアログ ボックスを閉じる際にエラー メッセージが表示されます。参照プロセスに [非アクティブ] が設定されていれば、エラー メッセージは表示されず、基準がフィルターとして追加されます。その場合、エラー メッセージは、プロセスがその後にアクティブ化された時のみに表示されます。

3.2. 準拠ルールの管理

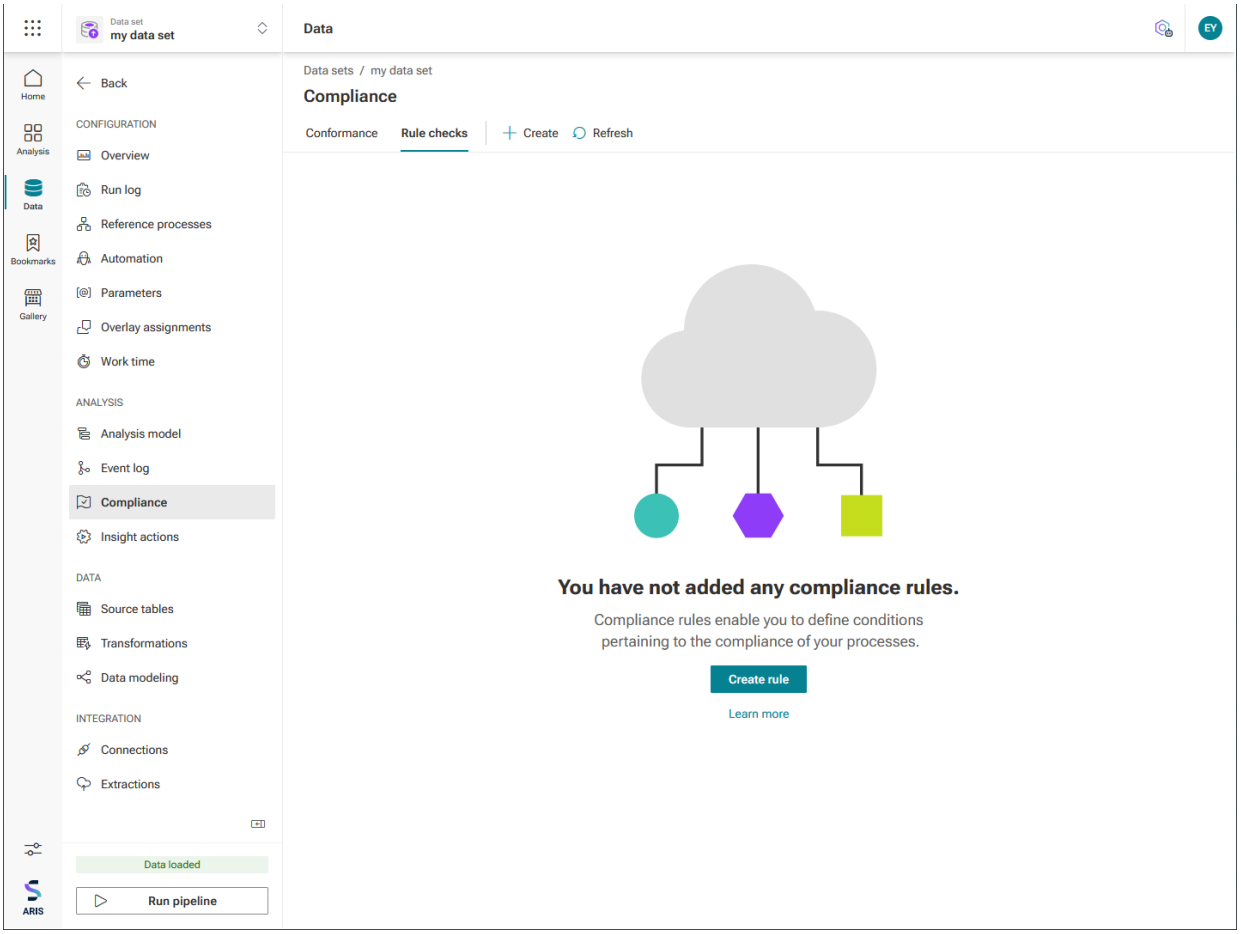
3.2.1. 準拠ルールの作成

準拠ルール チェックに使用できる 1 つまたは複数の準拠ルールを作成できます。

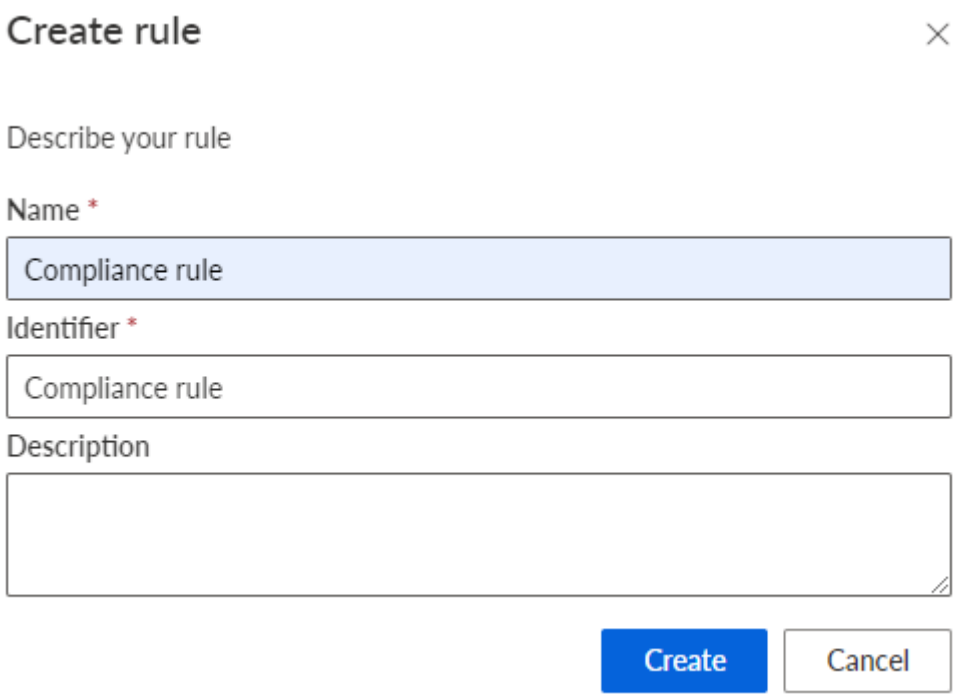
手順

1. 準拠ルール チェックを実行するプロセスを含むデータ セットを開きます。
2. [データ セット] パネルの **[コンプライアンス]** をクリックします。 **[コンプライアンス]** セクションが **[適合]** ページとともに開きます。

3. **[ルール チェック]** をクリックします。 準拠ルールを管理するページが開きます。
   例
   ルールがまだ作成されていないページは、このようになります。



4. **[ルールの作成]** をクリックします。 対応するダイアログ ボックスが開きます。



5. ルール名を指定します。 名前は、ルールに違反した場合に **[コンプライアンス]** アプリに表示されます。 この名前は言語非依存であり、翻訳できません。
6. 識別子を指定します。 識別子は、各準拠ルールで一意である必要があります。
7. オプションで、説明を入力することもできます。
8. **[作成]** をクリックします。

準拠ルールを作成していること。 準拠ルールを作成するページが開きます。

これで、作成したルールに条件を定義 [34]できます。

3.2.2. 準拠ルールの条件を作成する

準拠すべきケースが満たす必要があるルールの条件を作成します。

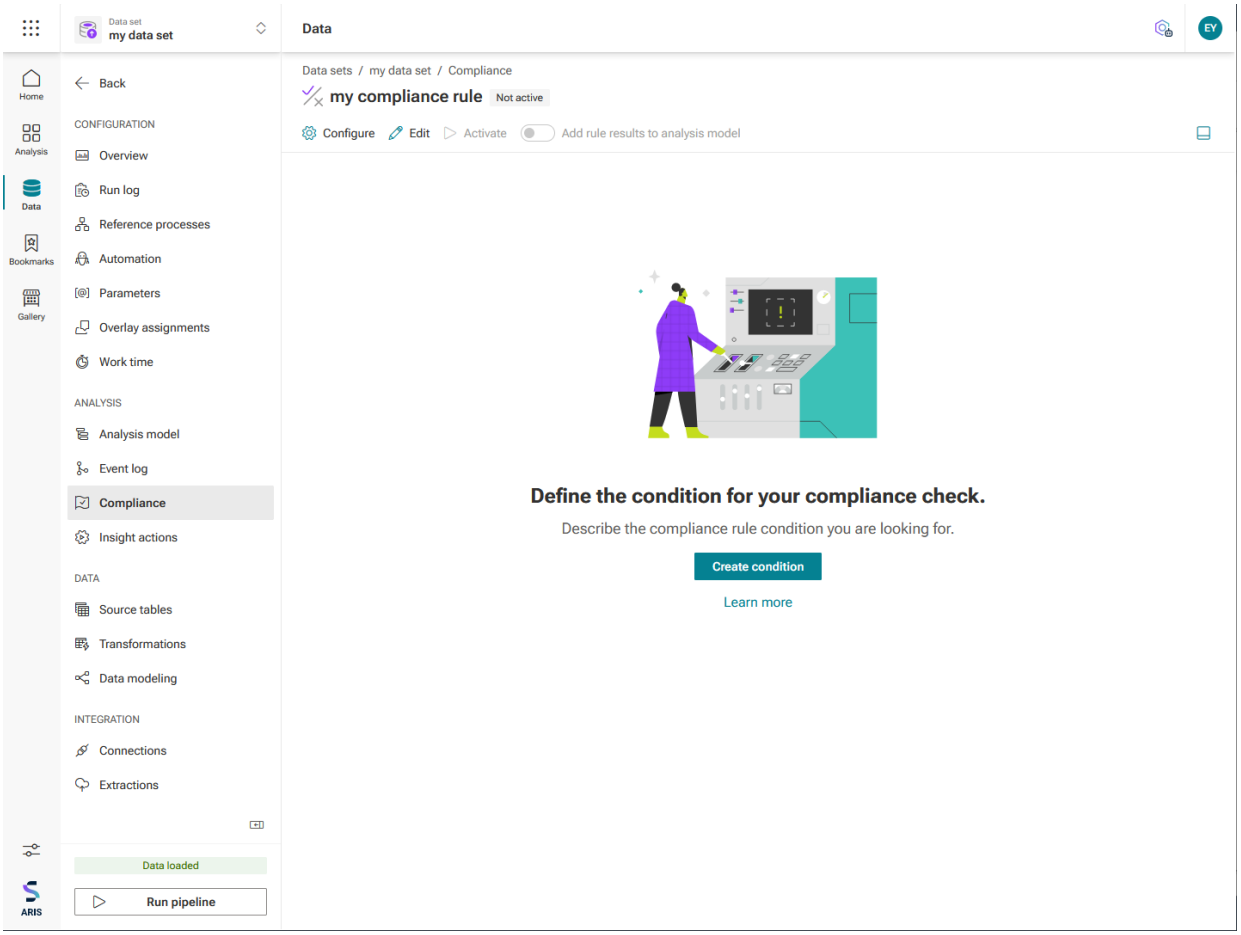
手順

1. 準拠ルールを含むデータ セットを開きます。
2. [データ セット] パネルの **[コンプライアンス]** をクリックします。 **[コンプライアンス]** セクションが **[適合]** ページとともに開きます。
3. **[ルール チェック]** をクリックします。 **[ルール チェック]** ページが開きます。

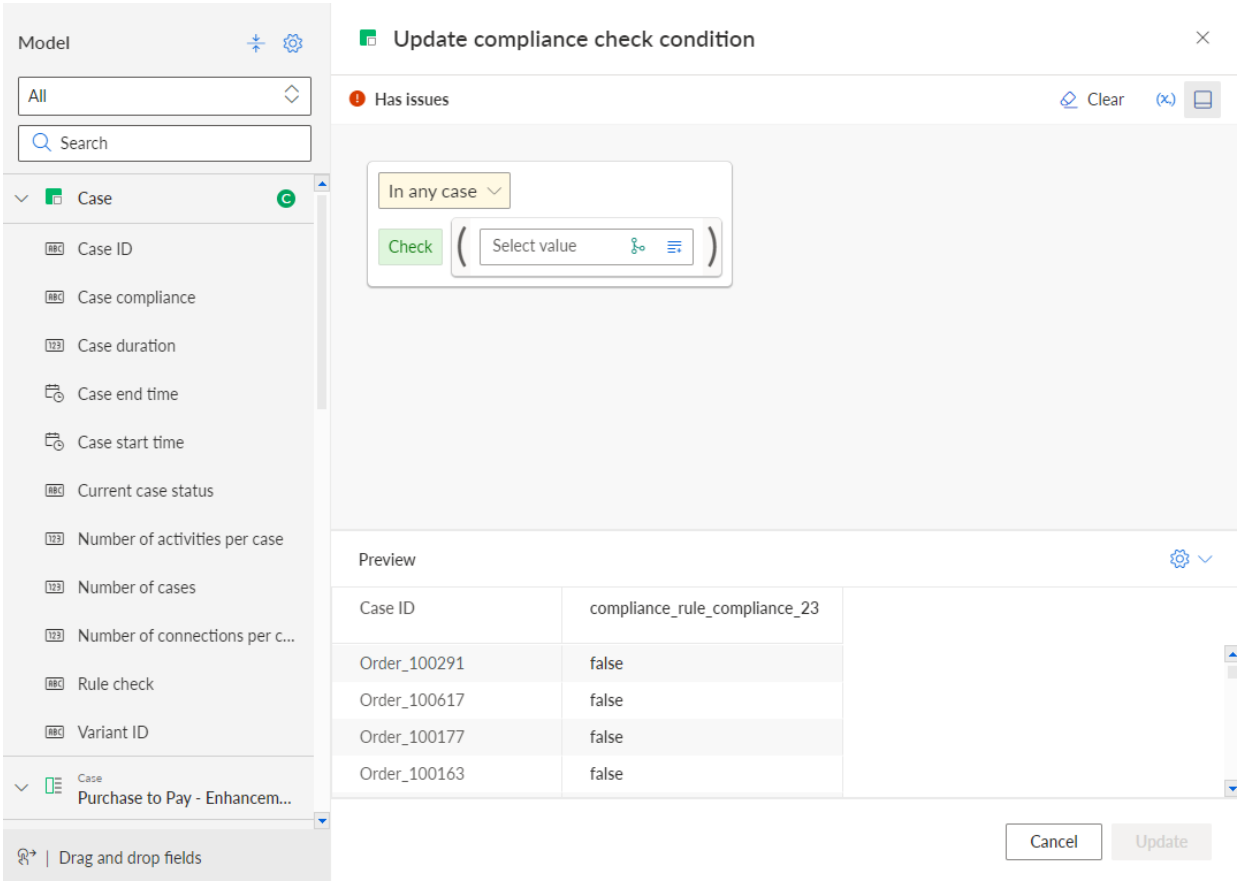
4. 準拠ルールをクリックします。 準拠ルールのページが開きます。

例

作成した準拠ルールのページ。 ルール条件はまだ作成されていません。

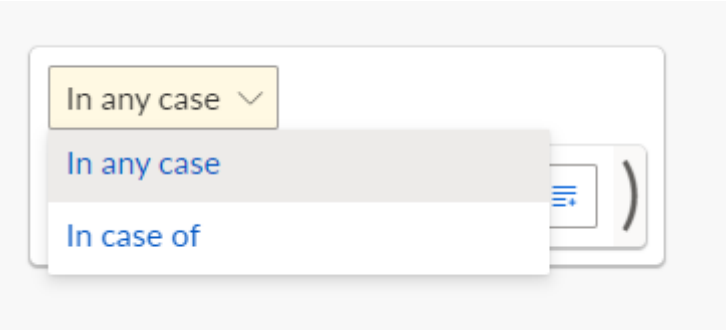


5. **[条件の作成]** をクリックします。 プリセット条件を含む、ルール条件を作成するページが開きます。
例



6. ビジュアル エディターを使用して、ルール条件を定義できます。 エディターの使用については、「ビジュアル エディターの使用」を参照してください。

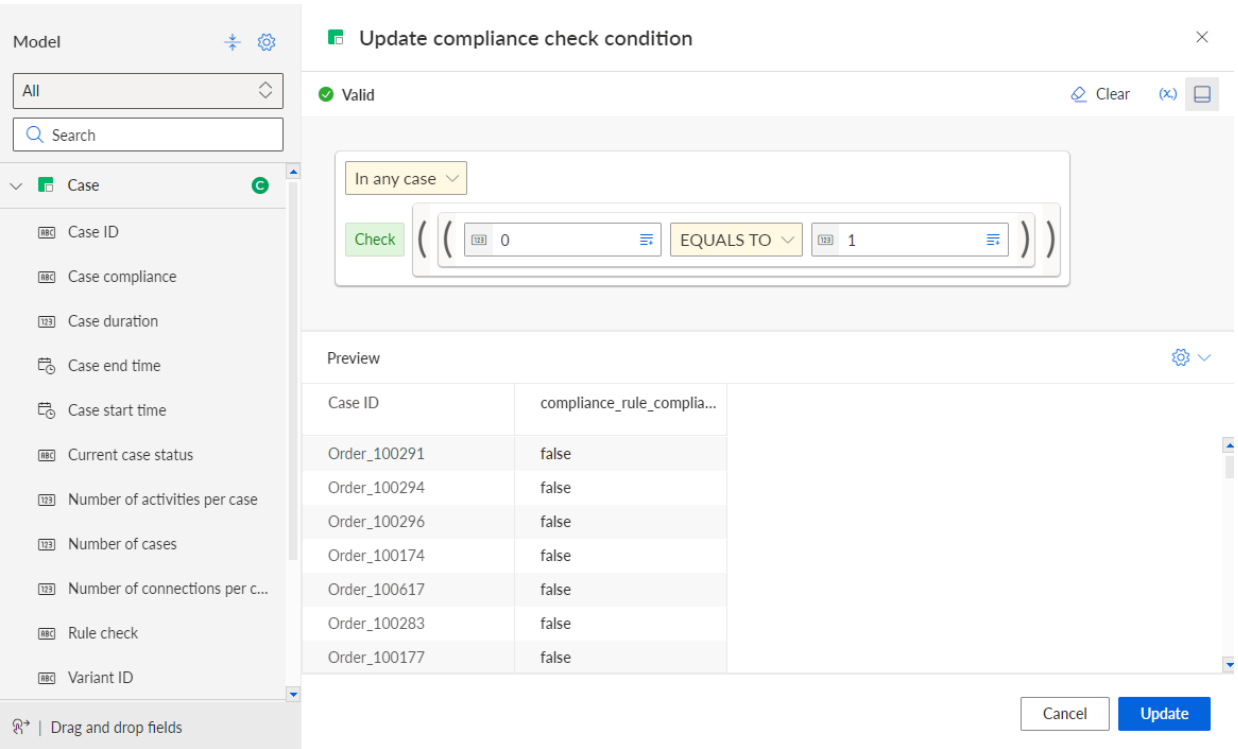
   各条件は、2 つの論理式、すなわち「スコープ」と「要件」で構成されています。 スコープはルールの対象となるケース、つまり、ルールがどのケースが真であるかを評価するのかを制限します。 ルールを無制限で適用する場合は、明確なスコープを指定する必要はありませんが、**[In any case] (任意のケース)** を選択できます。



   この部分の要件が、スコープ内のケースがルールに準拠するのかどうかを判断するために評価されます。ケースがスコープ外であれば、そのケースはルールに違反できず、要件を満たす必要もなく、検査に合格します。 言い換えると、スコープが真であると評価され、要件が偽であると評価された場合のみ、ルール全体が偽と評価されます。 その他のすべてのケースでは、ルールは真として評価されます。

   例

   たとえば、すべてのケースに適用され、必ず不合格になる非常に簡単なルールを定義します。 ルールの構文が適格であれば、評価結果をプレビューできます。



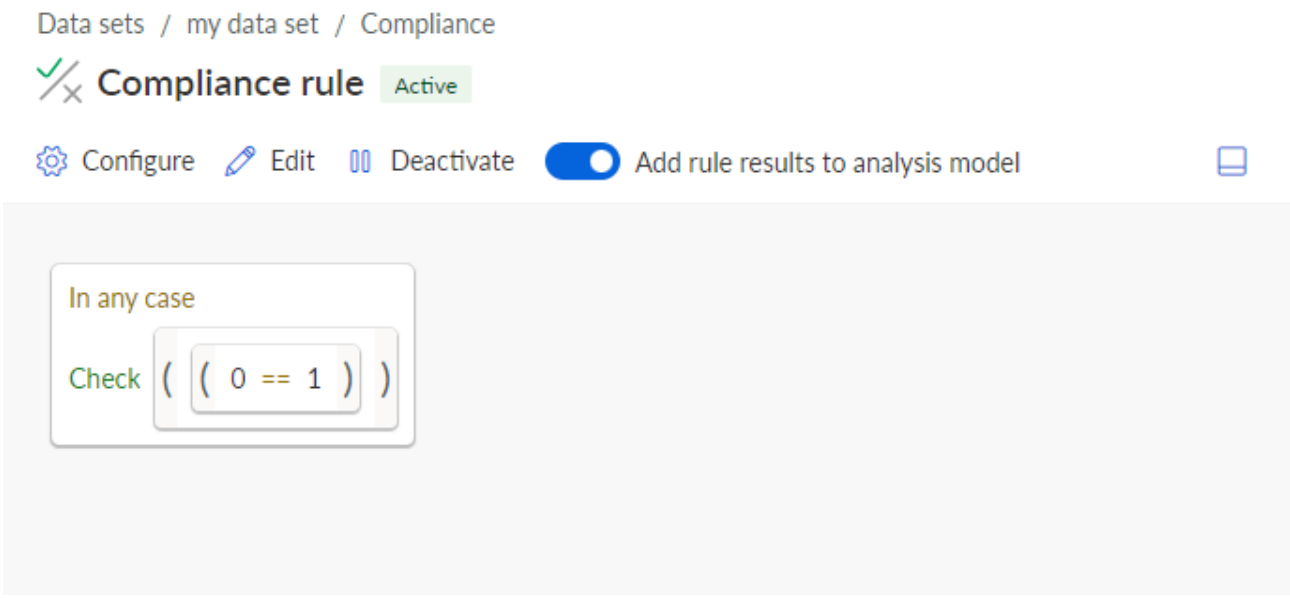
7. **[更新]** をクリックします。

ルール条件を作成しました。 条件は [ルール] ページに表示されます。

明示的に、ルールをアクティブ化し、適用する [38]必要があります。

例 11

アクティブ化された、ルール条件を含む準拠ルール。



3.2.3. 準拠ルールをアクティブにする

明示的に、適用されるべき準拠ルールをアクティブ化する [38]必要があります。 アクティブ化されたルールのみが、分析で使用できます。

アクティブ化された準拠ルールは、**[コンプライアンス]** アプリの準拠ルールの問題一覧で使用できます。 特定のルールとともに問題を **[コンプライアンス] [6]** アプリ [6]からフィルターとしてプッシュできます。

また、根本原因のマイニングで、準拠ルールを現象として使用することもできます。

手順

1. 準拠ルールを含むデータ セットを開きます。
2. [データ セット] パネルの **[コンプライアンス]** をクリックします。 **[コンプライアンス]** セクションが **[適合]** ページとともに開きます。
3. **[ルール チェック]** をクリックします。 **[ルール チェック]** ページが開きます。
4. 準拠ルールをクリックします。 準拠ルールのページが開きます。
5. ▷ **[アクティブにする]** をクリックします。

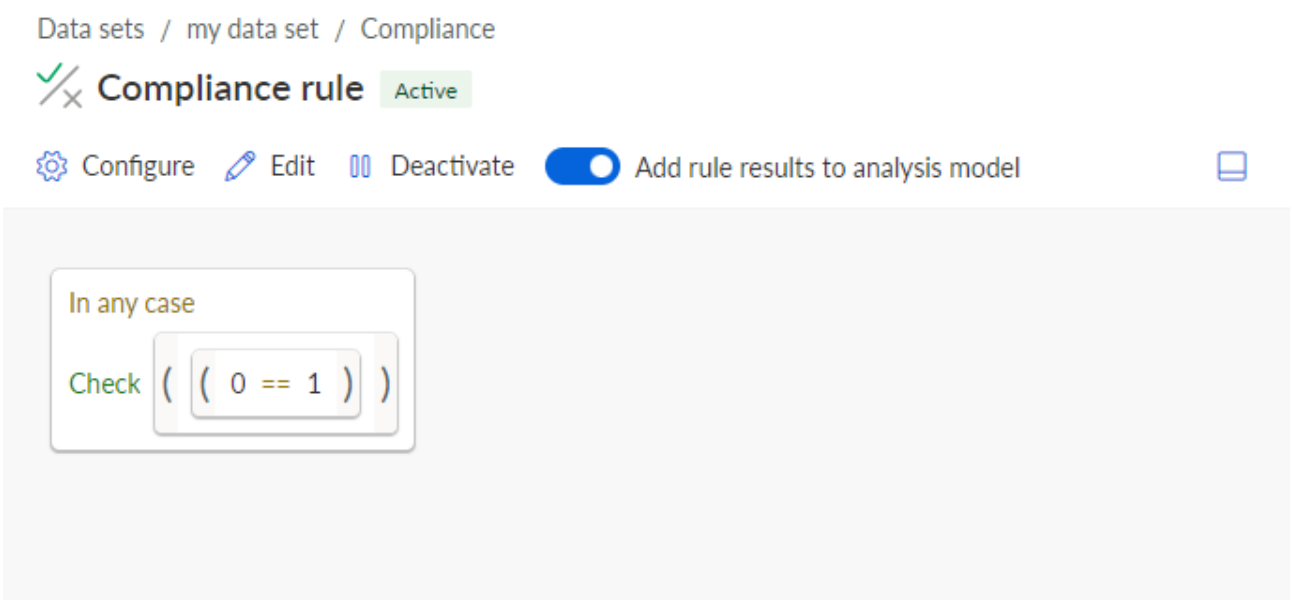
準拠ルールが分析用にアクティブ化されます。

ルールを無効にするには、 ⏸ **[一時停止]** をクリックします。

分析モデルでアクティブ化されたルールを追加フィールドとして使用できるようにできます。 [39]

例 12

アクティブ化された、ルール条件を含む準拠ルール。



3.2.4. 分析モデルで準拠ルールを使用する

分析で任意の他のフィールドとして使用できる追加フィールドとして準拠ルールを分析モデルに提供できます。これは、たとえば、**[コンプライアンス]** アプリ以外の分析で、計算済みフィールドを定義したり、インサイト トリガーを作成したり、分析基準として使用したりできます。

必要条件

準拠ルールを作成していること。 [32]

手順

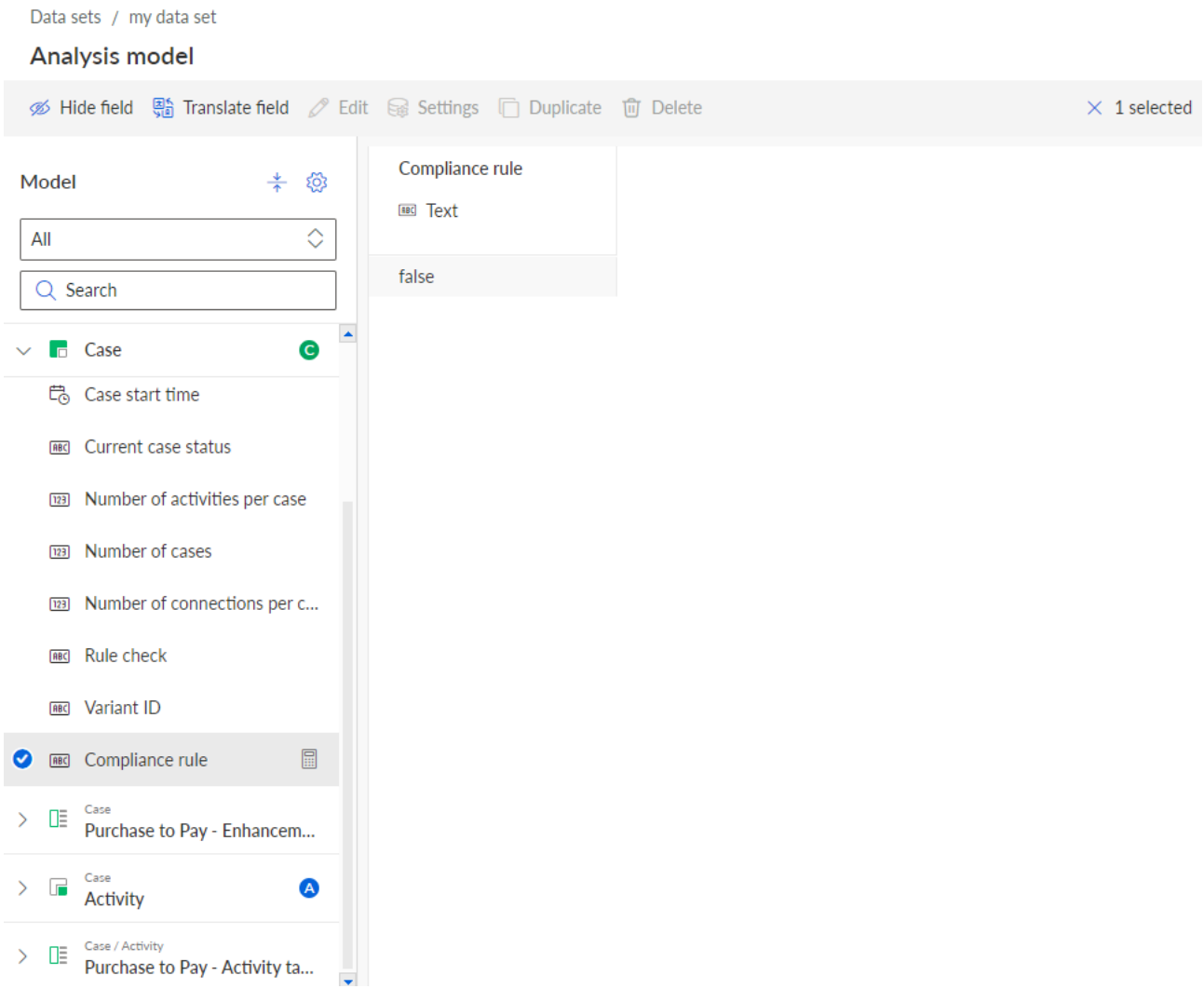
1. 作成した準拠ルール用のデータ セットを開きます。
2. [データ セット] パネルの **[コンプライアンス]** をクリックします。 **[コンプライアンス]** セクションが **[適合]** ページとともに開きます。
3. **[ルール チェック]** をクリックします。 準拠ルールを管理するページが開きます。
4. 準拠ルールをクリックします。 対応するページが開きます。
5. まだ有効化していない場合は、▷**[アクティブにする]**をクリックして、ルールを有効にしてください。
6. **[ルール結果を分析モデルに追加]** オプションを有効にします。

分析モデルで準拠ルールの使用が有効になりました。 これで、準拠ルールを分析モデルの計算済みフィールド (🖩) として使用できます。

計算済みフィールドの名前は翻訳できます (分析で使用されるフィールド名)。 しかし、その名前は、ルール設定と **[コンプライアンス]** アプリに表示されるルール名とは独立しています。

例 13

準拠ルールが、分析モデルの **[ケース]** オブジェクトの下に計算済みフィールド (🖩) として、一覧に表示されています。



3.2.5. 準拠ルールの削除

既存の準拠ルールを削除できます。 削除した準拠ルールは **[ルール チェック]** ページと **[コンプライアンス]** アプリから削除されますので注意してください。 しかし、ルール データは、ケースのすべての計算済み属性、すべてのコンプライアンス チェック、フィルターと同様にデータ セットに残ります。 ルールを完全に削除するには、準拠ルールの設定を再計算する [41]必要があります。

ルールを削除した後は、同じ名前の新しいルールを作成できます。 しかし、準拠ルールの設定を再計算する [41]まで、削除したルールと同じ ID を持つ新しいルールは作成できません。

警告
削除した準拠ルールは復元できません。

他の計算が依存するアクティブなルールを削除または無効にするか、分析モデルからフィールドを削除すると、依存する属性の一覧を表示する警告ダイアログ ボックスが表示されます。 ルールは削除できますが、依存する計算は機能しなくなります。

手順

1. 削除する準拠ルールを含むデータ セットを開きます。
2. [データ セット] パネルの **[コンプライアンス]** をクリックします。 **[コンプライアンス]** セクションが **[適合]** ページとともに開きます。
3. **[ルール チェック]** をクリックします。 準拠ルールを管理するページが開きます。
4. 準拠ルールを選択します。
5. **[削除]** をクリックします。
6. **[削除]** をもう一度クリックします。

準拠ルールを削除しました。

データ セットを再計算する [41]必要があります。

3.2.6. データ セットの再計算

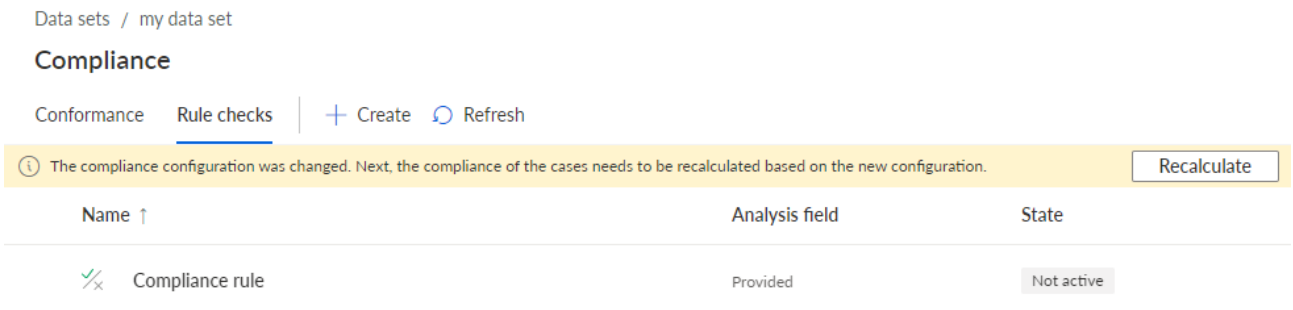
特定の変更をする際に、データ セットを再計算する必要があります。 たとえば、ルールのアクティブ化または非アクティブ化、アクティブなルールのケース列の作成または削除、アクティブなルールのロジックの変更は、再計算が必要です。 再計算が必要な場合は、適切な情報とともに通知されます。

手順

1. 再計算する準拠ルールを含むデータ セットを開きます。
2. [データ セット] パネルの **[コンプライアンス]** をクリックします。 **[コンプライアンス]** セクションが **[適合]** ページとともに開きます。
3. **[ルール チェック]** をクリックします。 準拠ルールを管理するページが開きます。
4. **[再計算]** をクリックします。

データ セットが再計算されます。

例



4. 適合分析のために ARIS と ARIS Process Mining を統合する

ARIS と ARIS Process Mining を統合すると、適合分析 [4]を実行できます。

統合設定の手順は、使用する ARIS エディションによって変わります。

- ARIS Basic または ARIS Advanced を使用している場合は、「ARIS Basic および Advanced の統合」 [42]の章で記載されている設定ステップに従います。
- ARIS Enterprise を使用している場合は、「ARIS Enterprise の統合」 [50]の章で記載されている設定ステップに従います。

注記
ARIS と ARIS Process Mining を組み合わせたディプロイメントで使用する場合は、ARIS と ARIS Process Mining を個別に統合する必要はありません。

4.1. ARIS Basic および Advanced の統合

4.1.1. 必要条件

ARIS Process Mining の必要条件

- **「ユーザー管理者」**利用権限があること。
- **「データ管理者」**利用権限があること。

ARIS Basic と ARIS Advanced の必要条件

- **「プロジェクト ルーム管理」**権限があること。

注記
ARIS Process Mining から ARIS へのバリアント転送を使用できるようにするには、同じ名前と、ユーザー名としてのメール アドレスを持つユーザー アカウントが ARIS Process Mining と ARIS で使用できる必要があります。

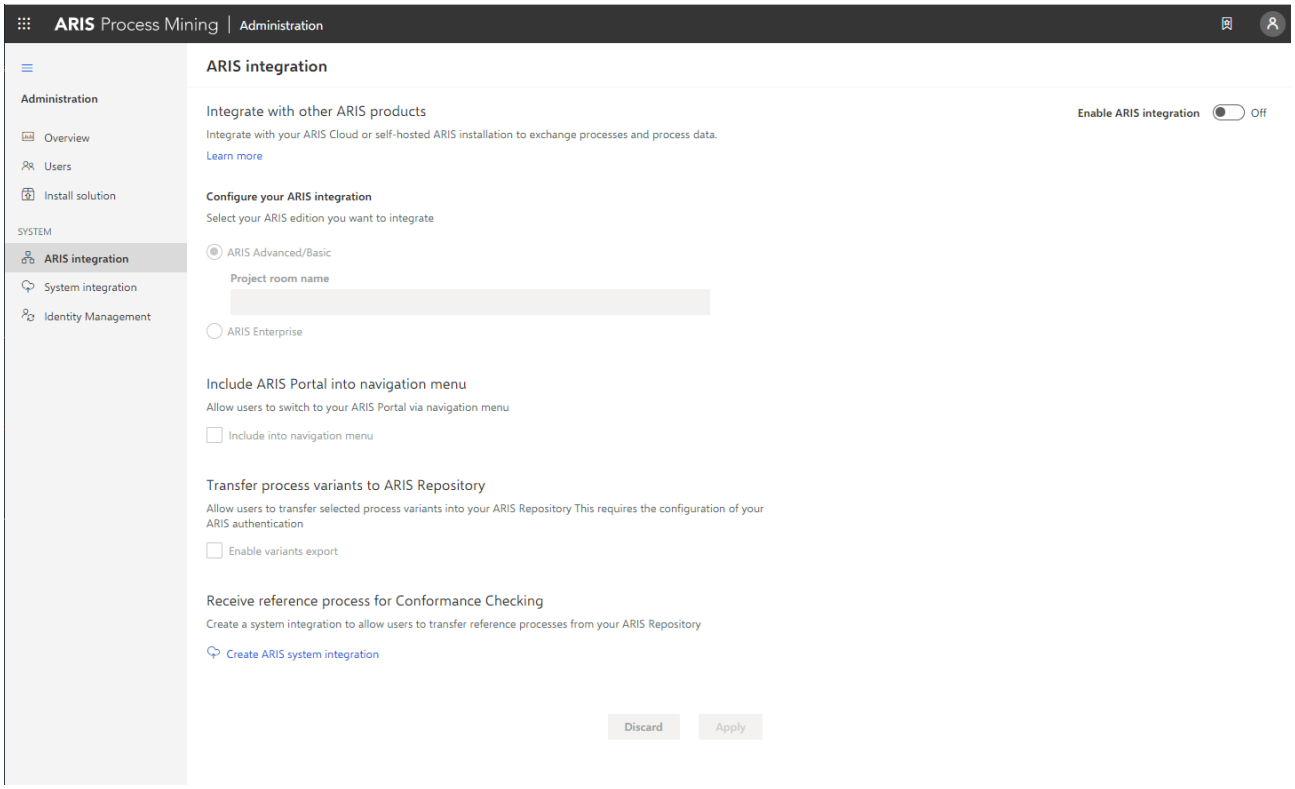
4.1.2. 統合の設定

ARIS Process Mining と ARIS の統合を設定するには、両方のアプリケーションを同時に Web ブラウザーの別々のタブで開きます。 一部の設定では、片方のアプリケーションからもう片方にデータをコピーする必要があります。

ARIS Process Mining で ARIS 統合ページを開く

1. ARIS Process Mining を開きます。
2. プログラム ヘッダーで、⁝⁝⁝ **[ナビゲーション メニュー]** アイコン、⚙ **[管理]** の順にクリックします。
3. **[管理]** パネルで **[ARIS 統合]** をクリックします。

[ARIS 統合] ページが開きます。



ARIS Process Mining を ARIS に接続して、ARIS へのリンクを有効にする

接続する ARIS プロジェクト ルームを指定して、ARIS Process Mining から ARIS に移動できる ARIS へのリンクを有効にします。

1. **[ARIS 統合の有効化]** オプションを有効にします。
2. **[ARIS 統合を設定してください]** にある **[ARIS Advanced/Basic]** を有効にします。
   接続するプロジェクト ルーム名 (「my_ARIS_ProjectRoom」など) を入力します。
3. **[「ARIS」をナビゲーション メニューに含めてください]** オプションを有効にします。
4. **[適用]** をクリックします。

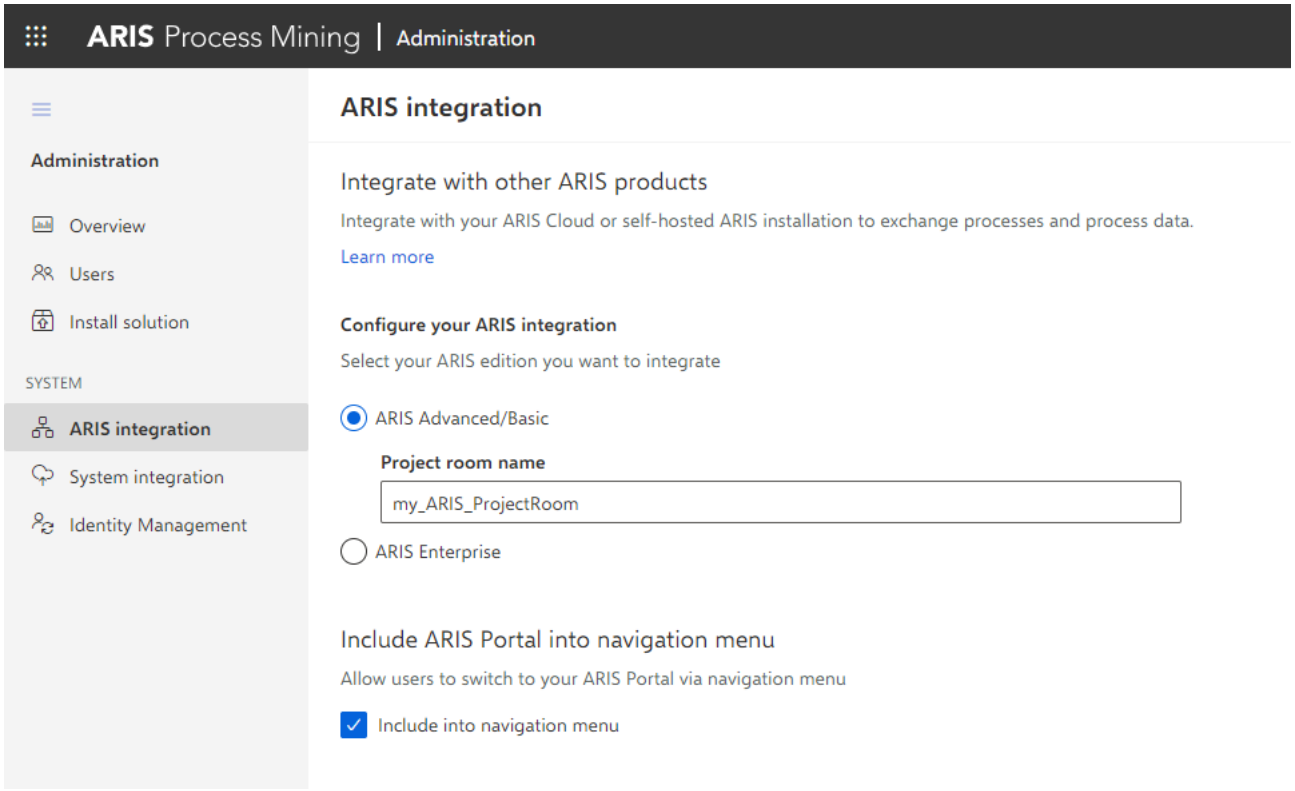
ARIS へのリンクが有効になります。

[ARIS 統合] ページが開いた状態を維持します。

[ARIS] リンクを **[ナビゲーション メニュー]** (⁝⁝⁝) に表示するには、[ARIS Process Mining] タブを再読み込みする必要があります。メニューにリンクが表示されるまで、しばらく時間がかかる場合があります。

例 14

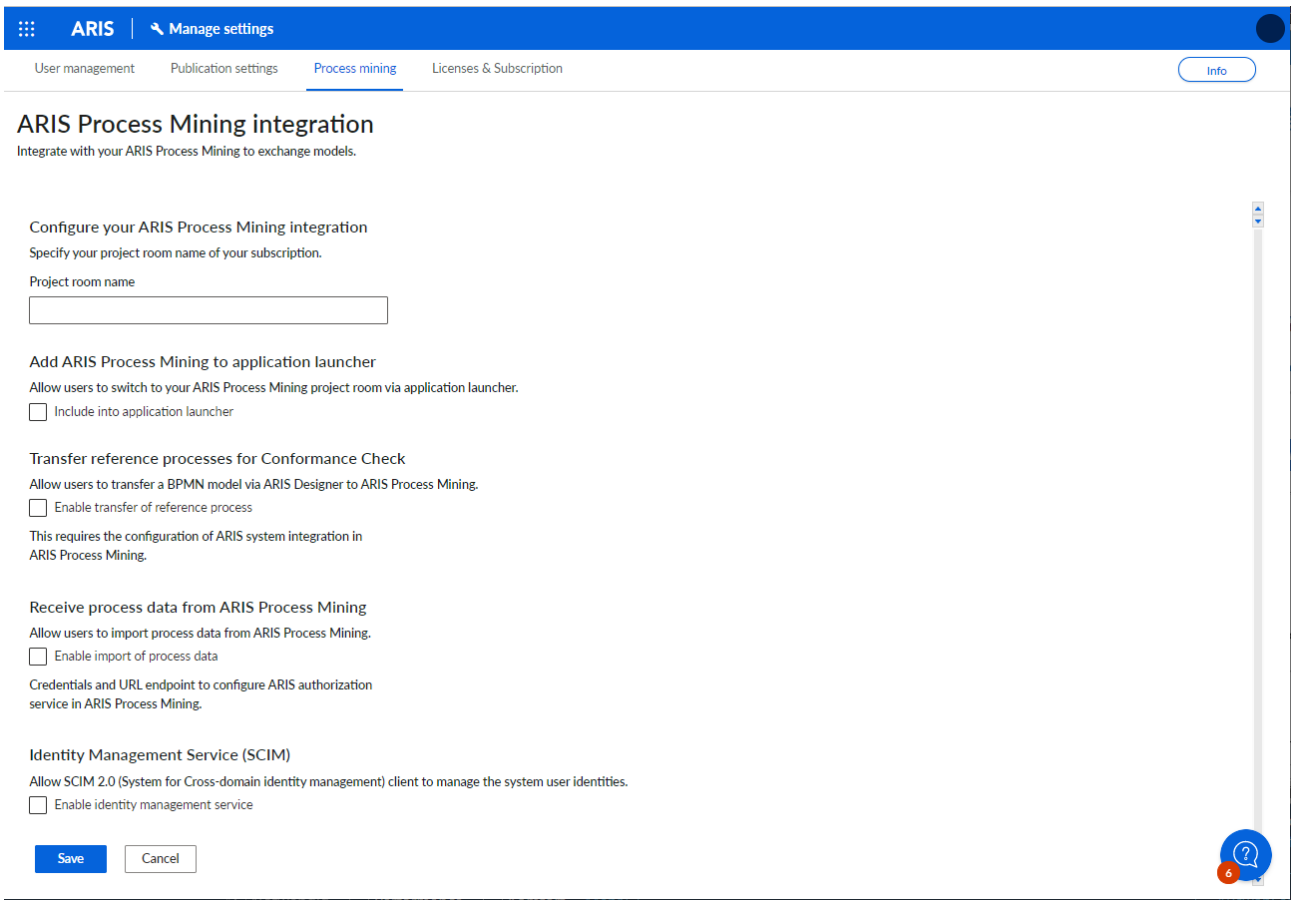
ARIS Advanced または Basic に接続して、**[ARIS Portal]** リンクを有効にします。



ARIS で ARIS Process Mining 統合ページを開く

1. Web ブラウザーの別のタブで ARIS を開きます。
2. **[アプリケーション起動ツール]**、**[管理]** の順にクリックします。
3. **[プロセスマイニング]** をクリックします。

[ARIS Process Mining 統合] ページが開きます。



ARIS を ARIS Process Mining に接続し、ARIS Process Mining へのリンクを有効にする

接続する ARIS Process Mining プロジェクト ルームを指定して、ARIS から ARIS Process Mining に移動できる ARIS Process Mining へのリンクを有効にします。

1. **[ARIS Process Mining 統合を設定してください]**で、接続する ARIS Process Mining プロジェクト ルームの名前 (「my_ProcessMining_ProjectRoom」など) を入力します。
2. **[ARIS Process Mining をアプリケーション起動ツールに追加]** の下にある **[アプリケーション起動ツールに追加]** オプションを有効にします。

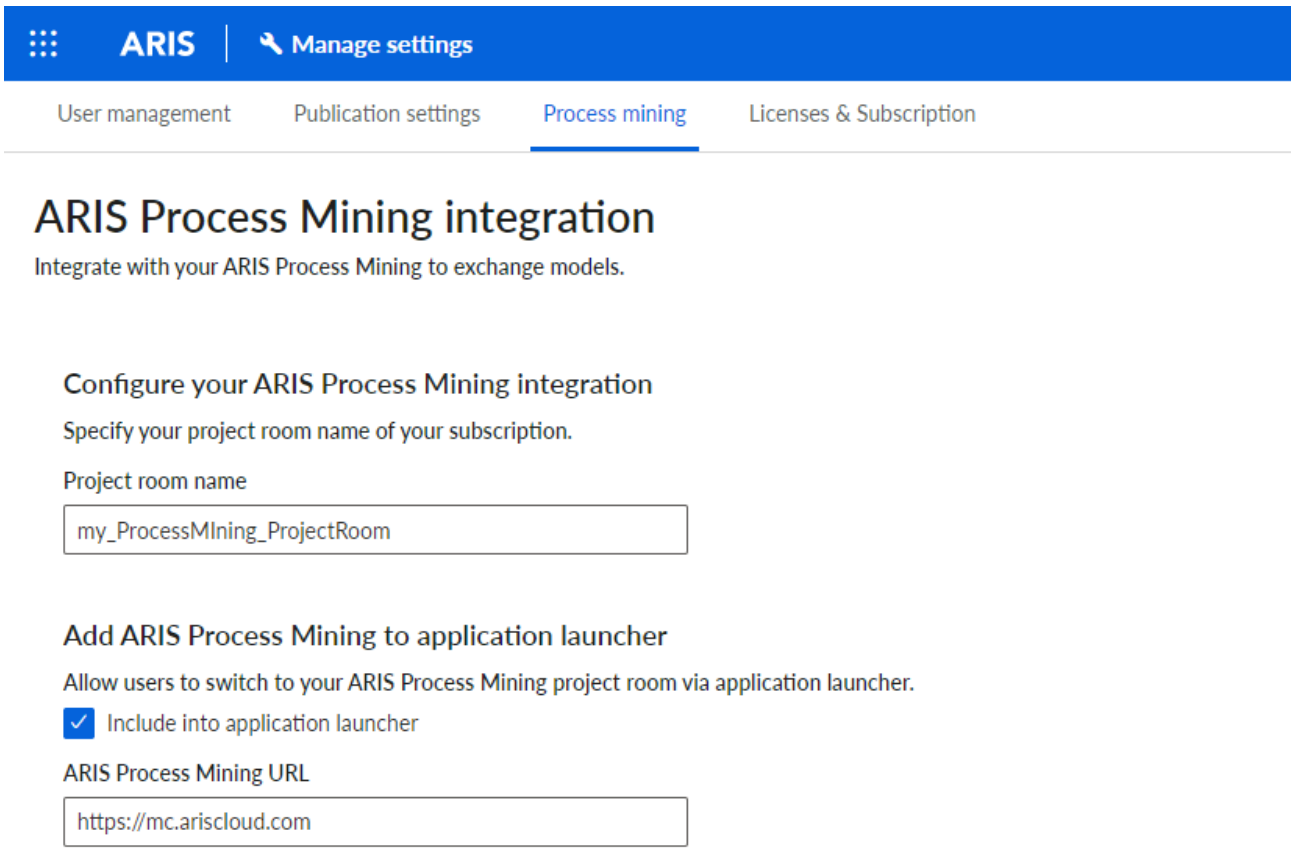
   [ARIS Process Mining URL] を入力します (例: https://mc.ariscloud.com)。
3. **[保存]** をクリックします。

ARIS Process Mining へのリンクが有効になります。

[アプリケーション起動ツール] メニューにリンクを表示するには、ARIS タブを再ロードする必要があります。メニューにリンクが表示されるまで、しばらく時間がかかる場合があります。

例 15

ARIS Process Mining に接続し、ARIS で ARIS Process Mining リンクを有効にします。

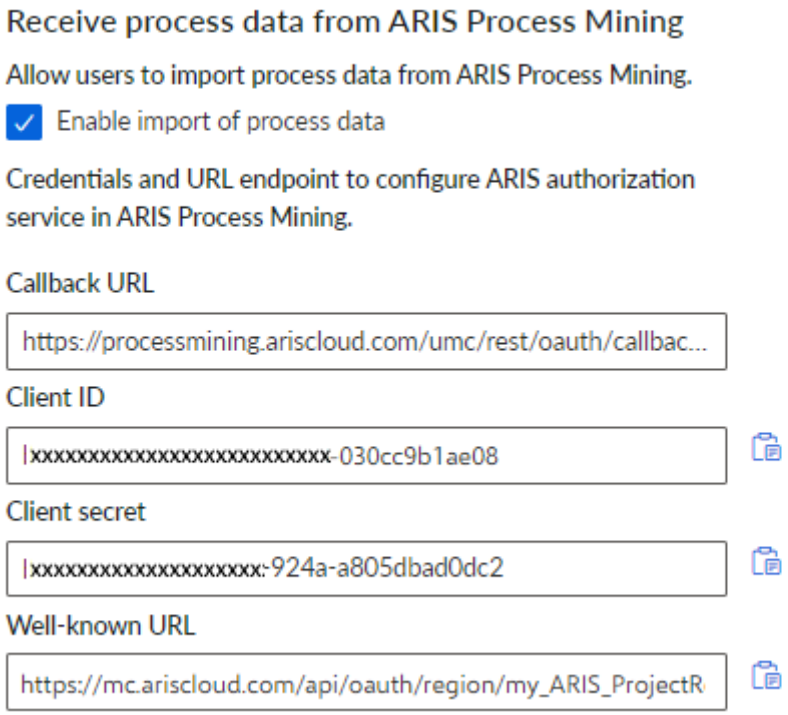


バリアント転送の有効化と設定

ARIS Process Mining でバリアント転送を設定する前に、まず、ARIS でプロセス データのインポートを有効にする必要があります。

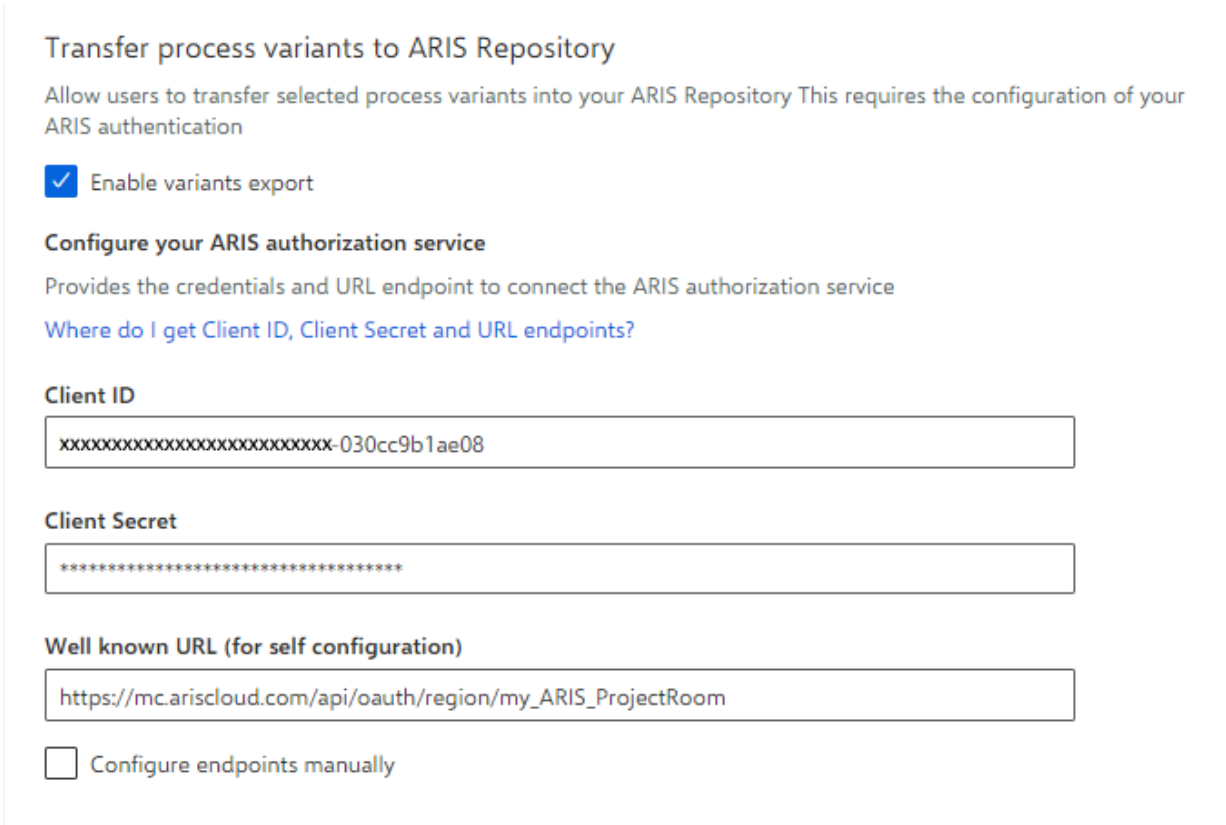
1. **[ARIS Process Mining からプロセス データを受け取る]** にある **[プロセス データのインポートを有効にする]** オプションを有効にします。
2. ARIS Process Mining プロジェクト ルームの **[コールバック URL]** を入力します。
   https://<ホスト名>/umc/rest/oauth/callback?tenant=<テナント ID>&provider=umc
   <ホスト名> を、ARIS Process Mining インストールのホスト名に置き換えます。 デフォルトのホスト名は **processmining.ariscloud.com** です。 <テナント ID> を、データ転送を有効にする ARIS Process Mining プロジェクト ルームの名前 (「my_ProcessMining_ProjectRoom」など) に置き換えます。
   例
   https://**processmining.ariscloud.com**/umc/rest/oauth/callback?tenant=**my_ProcessMining_ProjectRoom**&provider=umc

3. **[保存]** をクリックします。
   クライアント ID、クライアント シークレット、周知の URL が提供されます。 ARIS Process Mining でプロセス転送を設定するには、次の手順でアクセス データが必要です。 データをクリップボードにコピーしてから、**[ARIS 統合]** ページの該当フィールドに貼り付けます (以下の手順 6 の記述参照)。
   例



4. **[ARIS 統合]** ページがある [ARIS Process Mining] タブを開きます。
5. **[プロセス バリアントを ARIS リポジトリへ転送]** の下にある **[バリアントのエクスポートを有効化]** オプションを有効にします。

6. **[ARIS Process Mining 統合]** ページで提供されているクライアント ID、クライアント シークレット、周知の URL をコピーし、対応する入力フィールドに挿入します。
   例



7. **[適用]** をクリックします。

バリアント転送が有効化および設定されました。

適合分析のためにプロセス転送を有効化および設定する

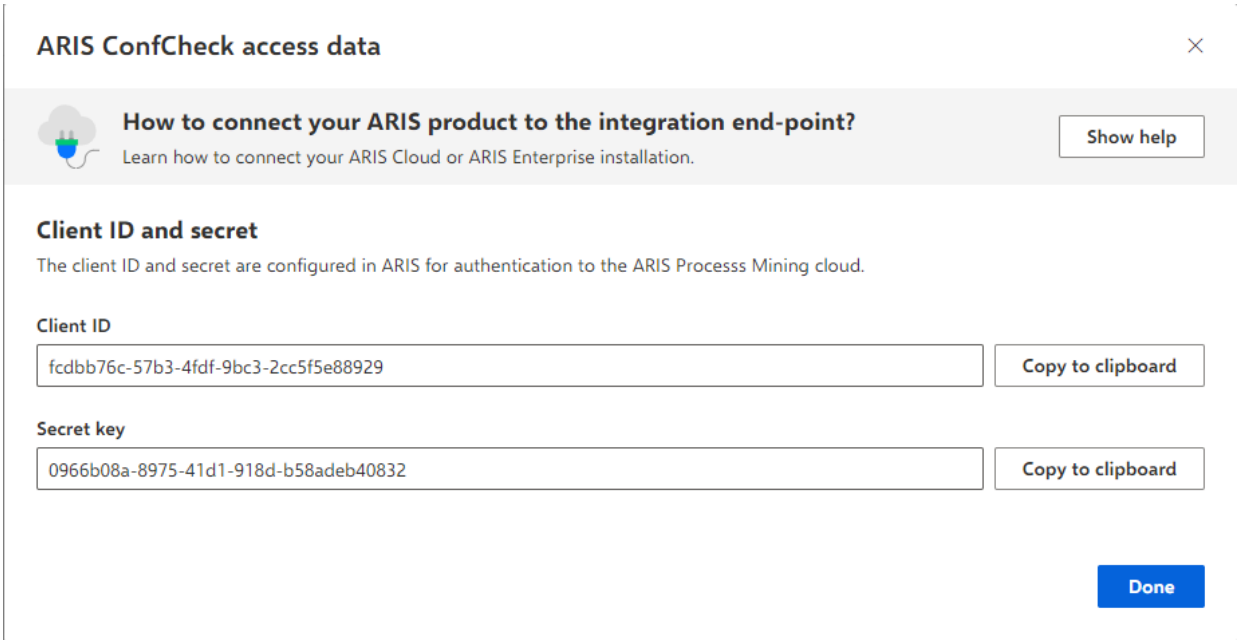
ARIS でプロセス転送を設定するには、まず、ARIS Process Mining で ARIS システム統合を作成する必要があります。

必要条件

前述のとおり、ARIS Process Mining へのリンクが有効化されている必要があります。

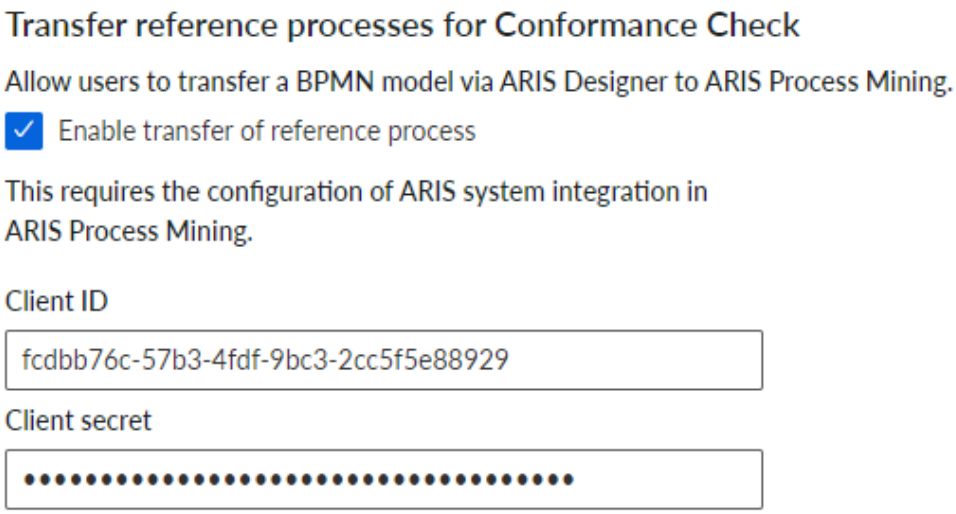
1. **[ARIS 統合]** の下の**[ARIS システム統合の作成]** をクリックします。対応するダイアログ ボックスが開きます。
2. 「ARIS ConfCheck」などの名前を入力し、オプションで説明を入力します。
3. **[付与タイプ (OAuth)]** として **[クライアント資格情報キー]** が選択されていることを確認します。

4. **[追加]** をクリックします。 **[ARIS Connect アクセス データ]** ダイアログ ボックスが開きます。
   ダイアログ ボックスにクライアント ID とシークレットが表示されます。 ダイアログ ボックスを開いた状態を維持します。 ARIS でプロセス転送を設定するには、次の手順でアクセス データが必要になります。 データをクリップボードにコピーしてから、**[ARIS Process Mining 統合]** ページの該当フィールドに貼り付けます (以下の手順 8 の記述参照)。
   例
   ARIS システム統合のアクセス データ。



   [完了] をクリックするとダイアログ ボックスが閉じて、ARIS システム統合が作成され、指定した名前が **[システム統合]** コンポーネントの一覧に表示されます。 一覧に表示されるシステム統合のステータスは無視してかまいません。
5. **[ARIS Process Mining 統合]** ページで [ARIS] タブを開きます。
6. 前述のとおり、ARIS Process Mining へのリンクが有効化されていることを確認します。
7. **[適合チェックのために参照プロセスを転送する]** にある **[参照プロセスの転送を有効にする]** オプションを有効にします。

8. 手順 4 の記述どおりに、ARIS Process Mining で作成した **[ARIS システム統合]** から提供されたクライアント ID とシークレットをコピーします。データを該当する入力フィールドに挿入します。

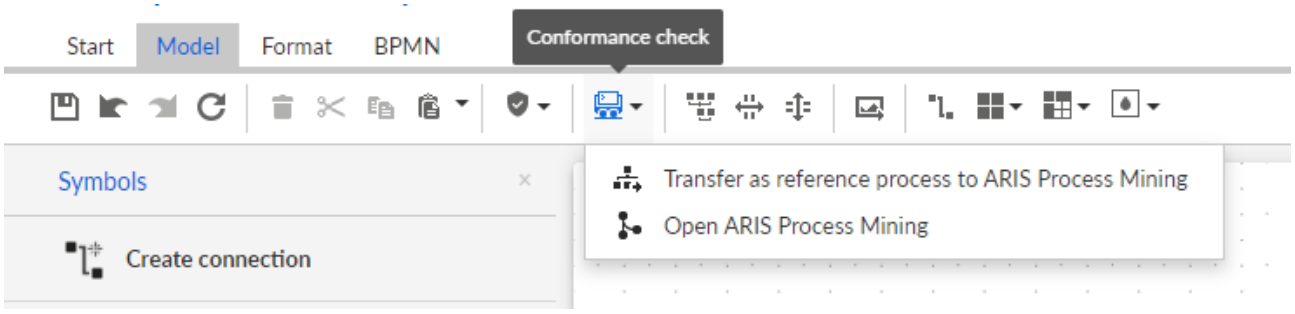


[保存] をクリックします。

適合分析のためのプロセス転送が有効化および設定されます。

これで、BPMN モデルを ARIS から ARIS Process Mining に転送できます。 この機能により、ARIS Process Mining を使用して適合チェックを実行できるようになります。

[参照モデルとして ARIS Process Mining へ転送] ボタンが ARIS モデル デザイナーで利用できるようになります。 BPMN モデルを開き、**[モデル]** タブで **[適合チェック]**ボタン、**[参照モデルとして ARIS Process Mining へ転送]** の順にクリックします。



4.2. ARIS Enterprise の統合

4.2.1. 必要条件

ARIS Process Mining の必要条件

- **「ユーザー管理者」**利用権限があること。

- **「データ管理者」**利用権限があること。

ARIS の必要条件

- **「ユーザー管理者」**利用権限を持っていること。
- **「技術設定管理者」**利用権限があること。

> **注記**
> ARIS Process Mining から ARIS へのバリアント転送を使用できるようにするには、同じ名前と、ユーザー名としてのメール アドレスを持つユーザー アカウントが ARIS Process Mining と ARIS で使用できる必要があります。

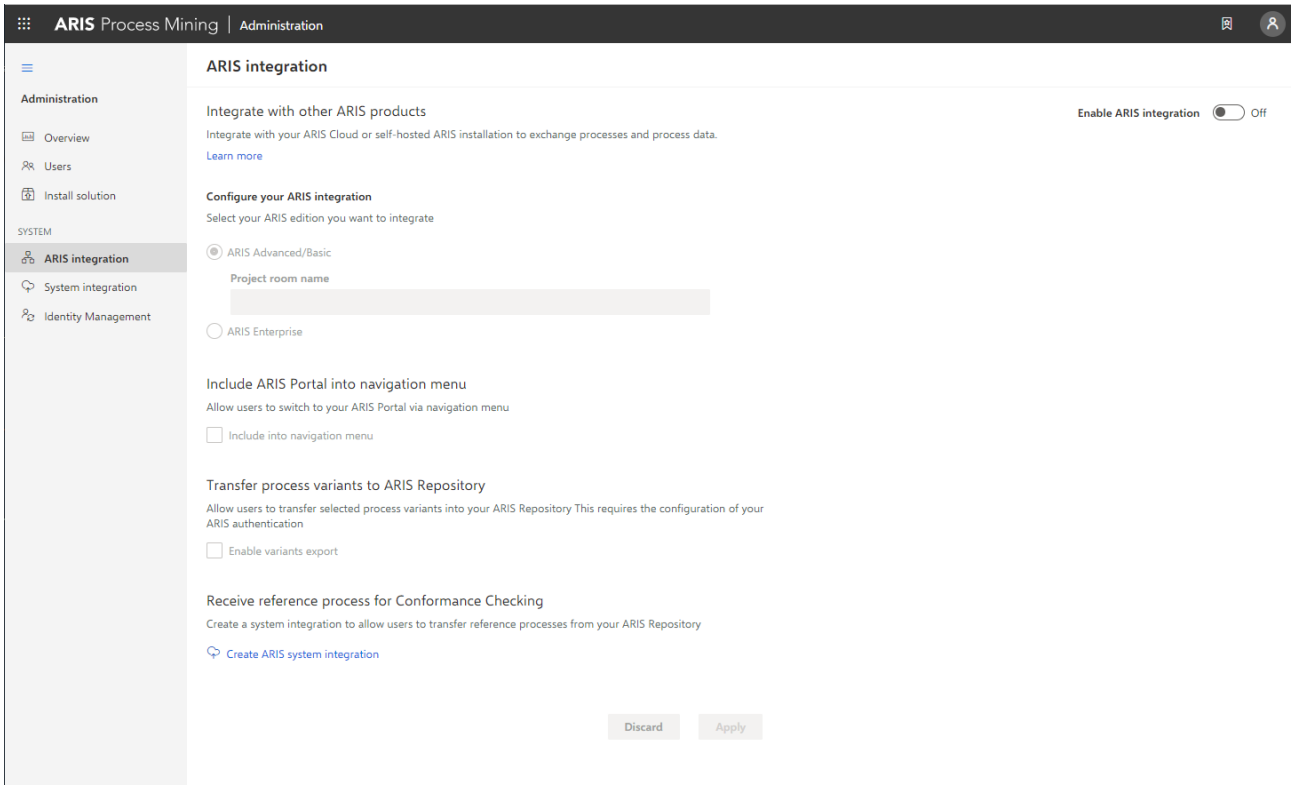
4.2.2. 統合の設定

ARIS Process Mining と ARIS の統合を設定するには、両方のアプリケーションを同時に Web ブラウザーの別々のタブで開きます。 一部の設定では、片方のアプリケーションからもう片方にデータをコピーする必要があります。

ARIS Process Mining で ARIS 統合ページを開く

1. ARIS Process Mining を開きます。
2. プログラム ヘッダーで、**[ナビゲーション メニュー]** アイコン、**[管理]** の順にクリックします。
3. **[管理]** パネルで **[ARIS 統合]** をクリックします。

[ARIS 統合] ページが開きます。



ARIS Process Mining を ARIS に接続して、ARIS へのリンクを有効にする

接続する ARIS プロジェクト ルームを指定して、ARIS Process Mining から ARIS に移動できる ARIS へのリンクを有効にします。

1. **[ARIS 統合の有効化]** オプションを有効にします。
2. **[ARIS 統合を設定してください]** にある **[ARIS Enterprise]** を有効にします。
   接続するプロジェクト ルームを含む ARIS Enterprise エディションの URL を指定します。 URL はブラウザーのアドレス バーからコピーできます。 URL を次の形式で指定します。
   https://<ホスト名>/#<ARIS プロジェクト ルーム名>
   例
   https://mycompany.ariscloud.com/#my_ARIS_ProjectRoom
3. **[「ARIS」をナビゲーション メニューに含めてください]** オプションを有効にします。
4. **[適用]** をクリックします。

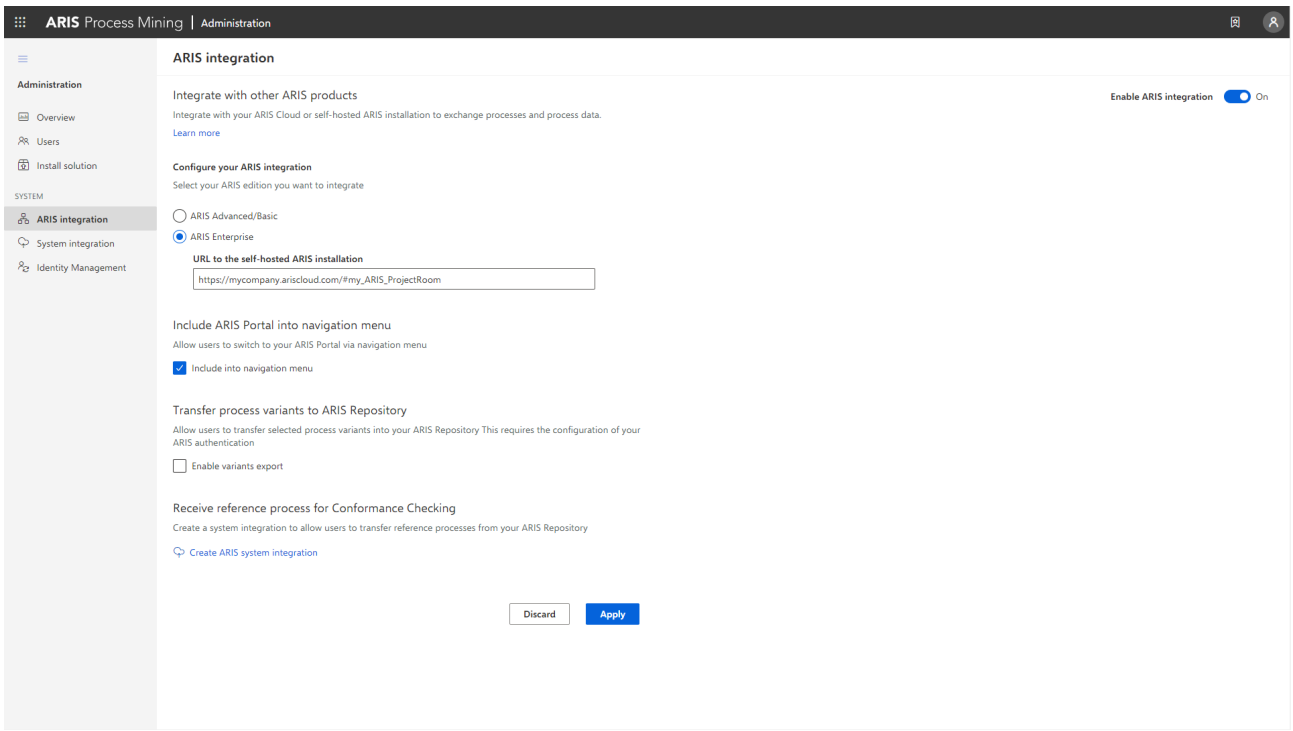
ARIS へのリンクが有効になります。

[ARIS 統合] ページが開いた状態を維持します。

[ARIS] リンクを **[ナビゲーション メニュー]** (⋮⋮⋮) に表示するには、[ARIS Process Mining] タブを再読み込みする必要があります。メニューにリンクが表示されるまで、しばらく時間がかかる場合があります。

例 16

ARIS Enterprise に接続して、**[ARIS]** リンクを有効にします。



ARIS 管理を開く

1. Web ブラウザーの別のタブで ARIS を開きます。
2. **[アプリケーション起動ツール]**、**[管理]** の順にクリックします。 **[設定]** が表示されます。

ARIS 管理が開きます。

ARIS を ARIS Process Mining に接続し、ARIS Process Mining へのリンクを有効にする

接続する ARIS Process Mining プロジェクト ルームを指定して、ARIS から ARIS Process Mining に移動できる ARIS Process Mining へのリンクを有効にします。

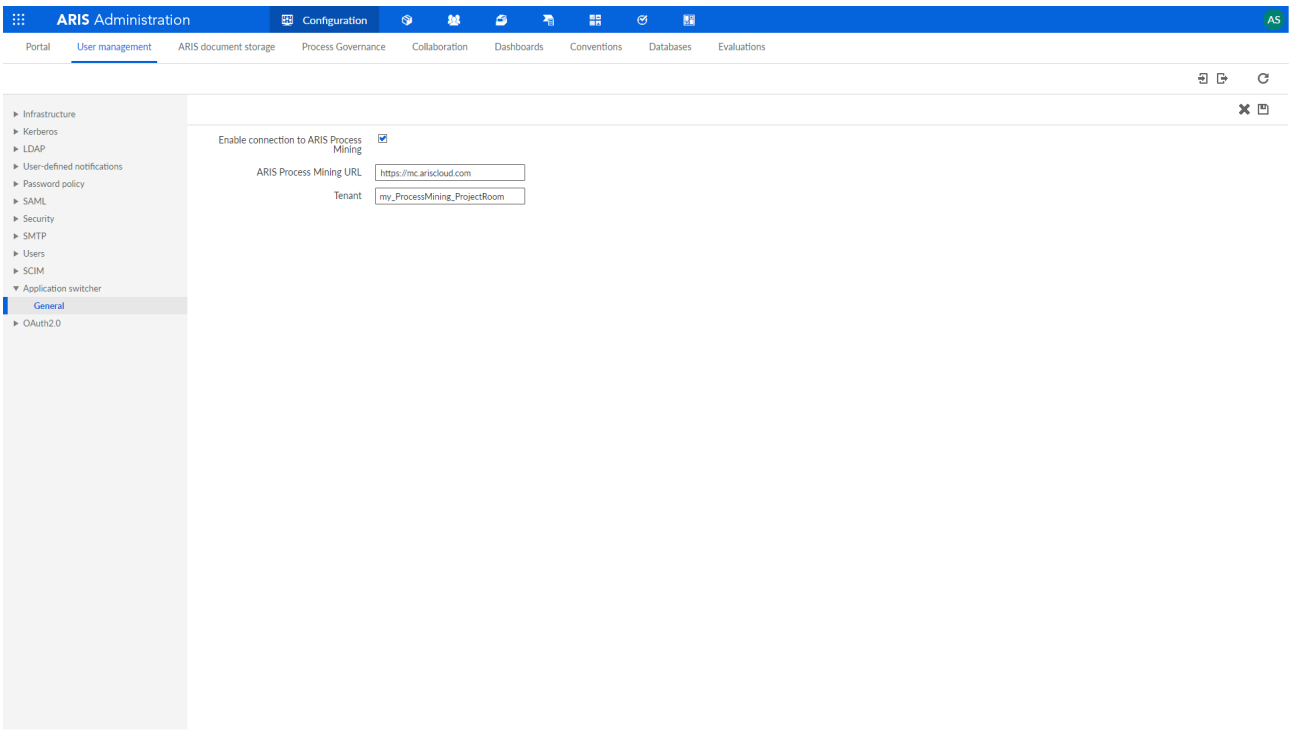
1. **[設定]**、**[ユーザー管理]** の順にクリックします。
2. **[アプリケーション スイッチャー]** の横にある矢印をクリックします。
3. **[全般]** をクリックします。
4. **[編集]** をクリックします。
5. **[ARIS Process Mining の接続を有効化]** オプションを有効にします。
6. **[ARIS Process Mining URL]** を入力します (例: https://mc.ariscloud.com)。
7. **[テナント]** 入力ボックスに、接続する ARIS Process Mining プロジェクト ルームの名前 (「my_ProcessMining_ProjectRoom」など) を入力します。
8. **[保存]** をクリックします。

ARIS Process Mining へのリンクが有効になります。

[アプリケーション起動ツール] () にリンクを表示するには、ARIS タブを再読み込みする必要があります。メニューにリンクが表示されるまで、しばらく時間がかかる場合があります。

例 17

ARIS Process Mining に接続し、ARIS で ARIS Process Mining リンクを有効にします。

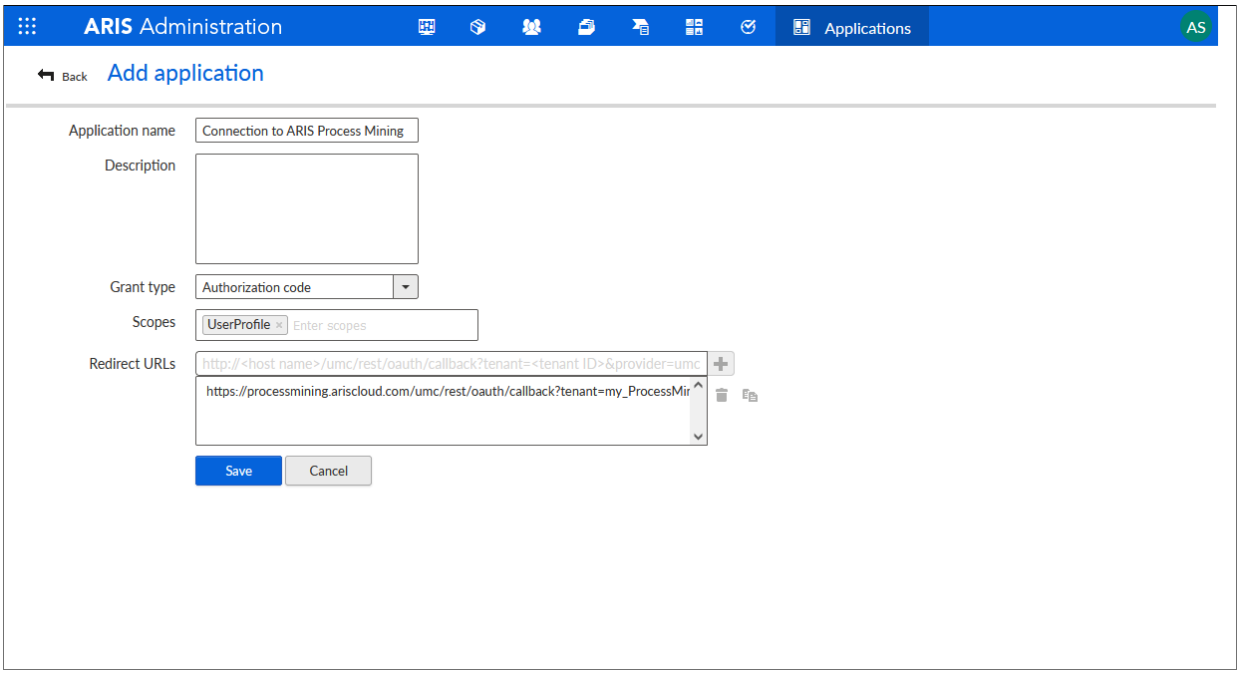


バリアント転送の有効化と設定

ARIS Process Mining でバリアント転送を設定する前に、まず、ARIS で接続線を作成する必要があります。

1. **[アプリケーション]** をクリックします。
2. ＋ **[アプリケーションの追加]** をクリックします。
3. 名前 (「ARIS Process Mining への接続」など) を入力します。
4. オプションで説明を入力します。
5. **[付与タイプ]** ドロップダウン メニューで、**[認証コード]** を選択します。
6. **[スコープ]** 入力フィールドに **[UserProfile]** を入力します。
7. ARIS Process Mining プロジェクト ルームの **[リダイレクト URL]** を入力します。
   https://<ホスト名>/umc/rest/oauth/callback?tenant=<テナント ID>&provider=umc
   <ホスト名> を、ARIS Process Mining URL のホスト名に置き換えます。 デフォルトのホスト名は **processmining.ariscloud.com** です。 **<テナント ID>** を、接続する ARIS Process Mining プロジェクト ルーム名に置き換えます。
   例
   https://**processmining.ariscloud.com**/umc/rest/oauth/callback?tenant=**my_ProcessMining_ProjectRoom**&provider=umc

8. **[+ 追加]** をクリックします。



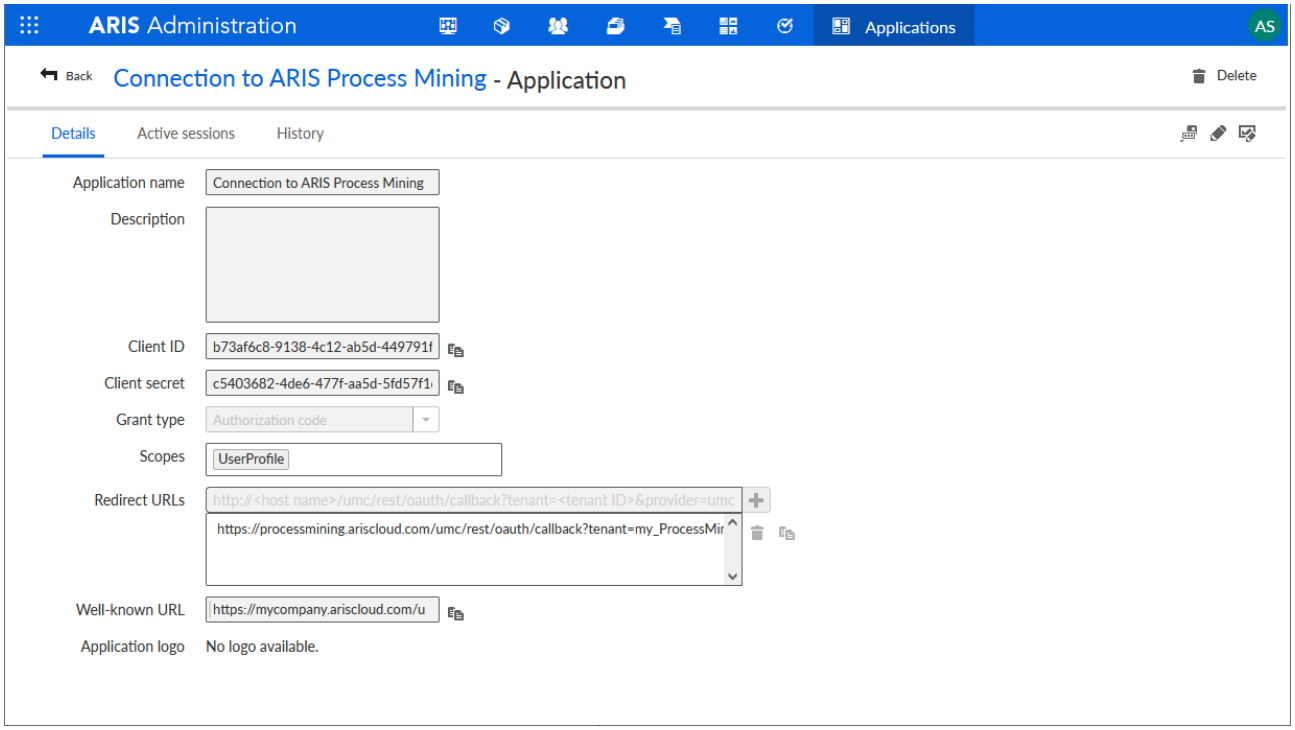
9. **[保存]** をクリックします。

ARIS Process Mining への接続が作成されました。

作成されたアプリケーションは、クライアント ID、クライアント シークレット、周知の URL を提供します。 ARIS Process Mining でバリアント転送を設定するには、これらのアクセス データが必要です。 データをクリップボードにコピーしてから、ARIS Process Mining の対応するフィールドに挿入します。

例 18

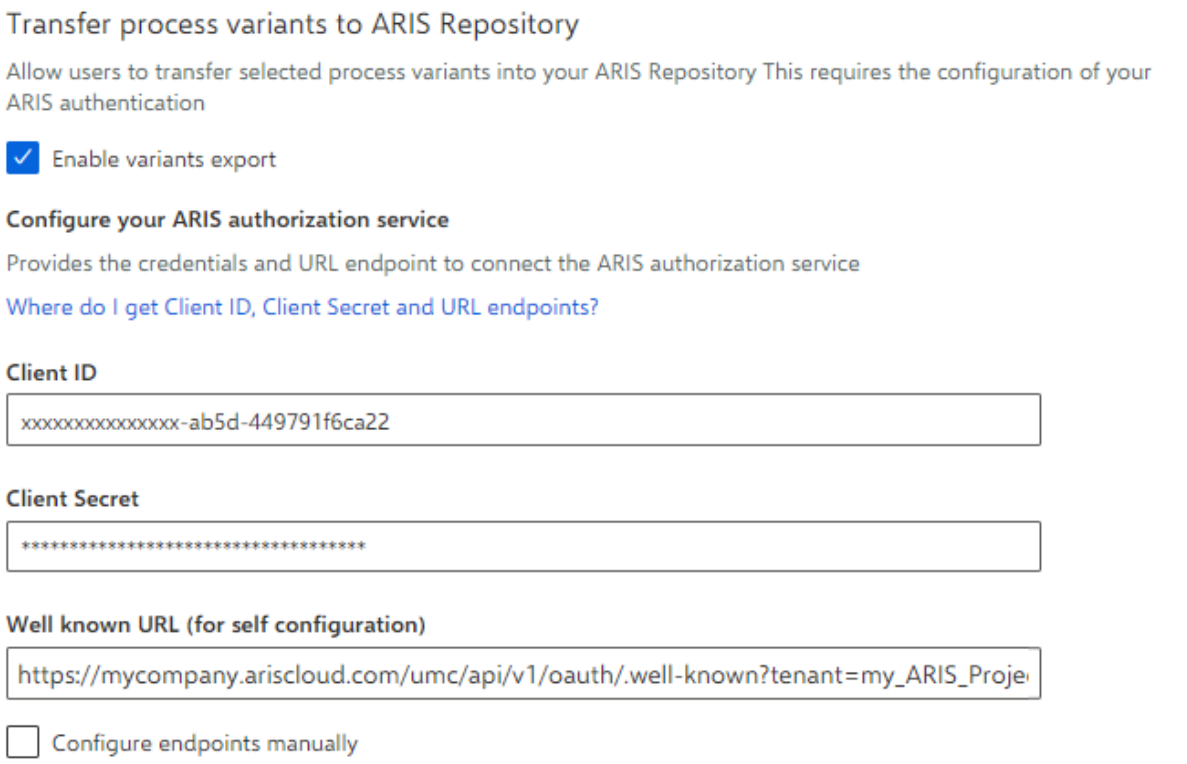
アプリケーションによって提供されるアクセス データ



ARIS Process Mining でバリアント転送を設定する

1. **[ARIS 統合]** ページがある [ARIS Process Mining] タブを開きます。
2. **[プロセス バリアントを ARIS リポジトリへ転送]** の下にある **[バリアントのエクスポートを有効化]** オプションを有効にします。
3. ARIS で作成された**アプリケーション**によって提供されているクライアント ID、クライアント シークレット、周知の URL をコピーし、対応する入力フィールドに挿入します。

   例



4. **[適用]** をクリックします。

バリアント転送が有効化および設定されました。

適合分析のための参照プロセス転送を有効化および設定する

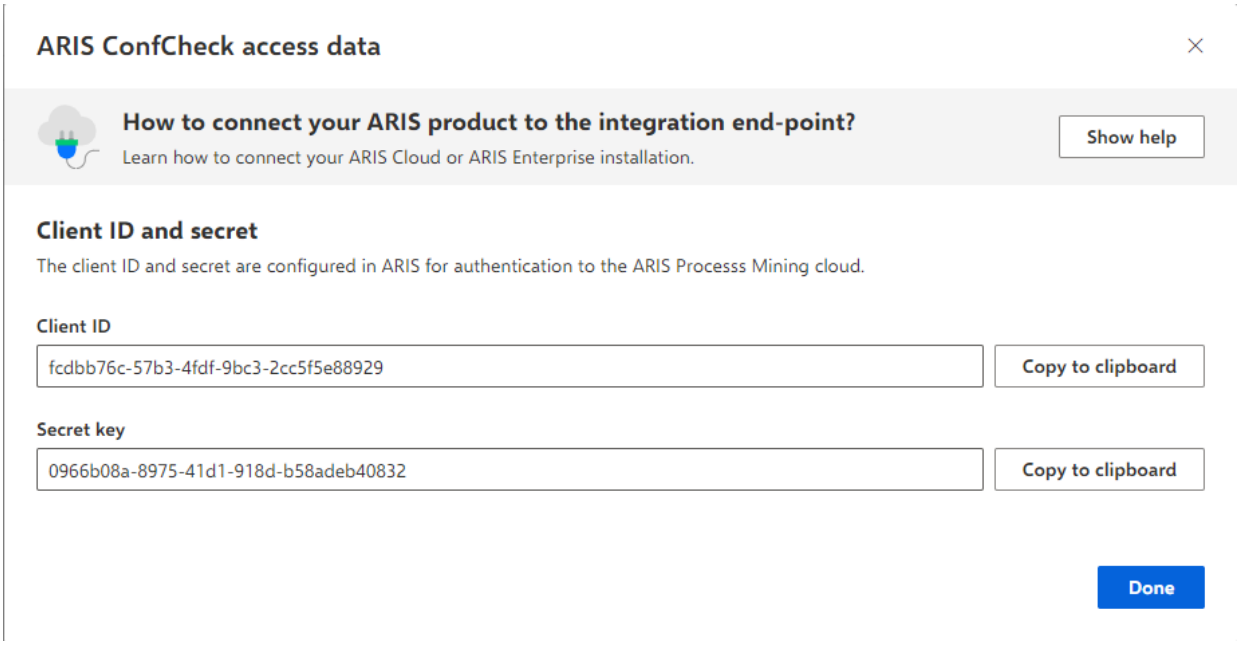
ARIS で必要な接続を設定するには、まず、ARIS Process Mining で ARIS システム統合を作成する必要があります。

必要条件

前述のとおり、ARIS Process Mining へのリンクが有効化されている必要があります。

1. **[ARIS 統合]** の下の**[ARIS システム統合の作成]** をクリックします。対応するダイアログ ボックスが開きます。
2. 「ARIS ConfCheck」などの名前を入力し、オプションで説明を入力します。
3. **[付与タイプ (OAuth)]** として **[クライアント資格情報キー]** が選択されていることを確認します。

4. **[追加]** をクリックします。 **[ARIS Connect アクセス データ]** ダイアログ ボックスが開きます。
   ダイアログ ボックスにクライアント ID とシークレットが表示されます。 ARIS でプロセス転送を設定するには、次の手順でアクセス データが必要になります。 データをクリップボードにコピーしてから、**[ARIS Process Mining 統合]** ページの該当フィールドに挿入します (以下の手順 8 の記述参照)。
   例
   ARIS システム統合のアクセス データ。

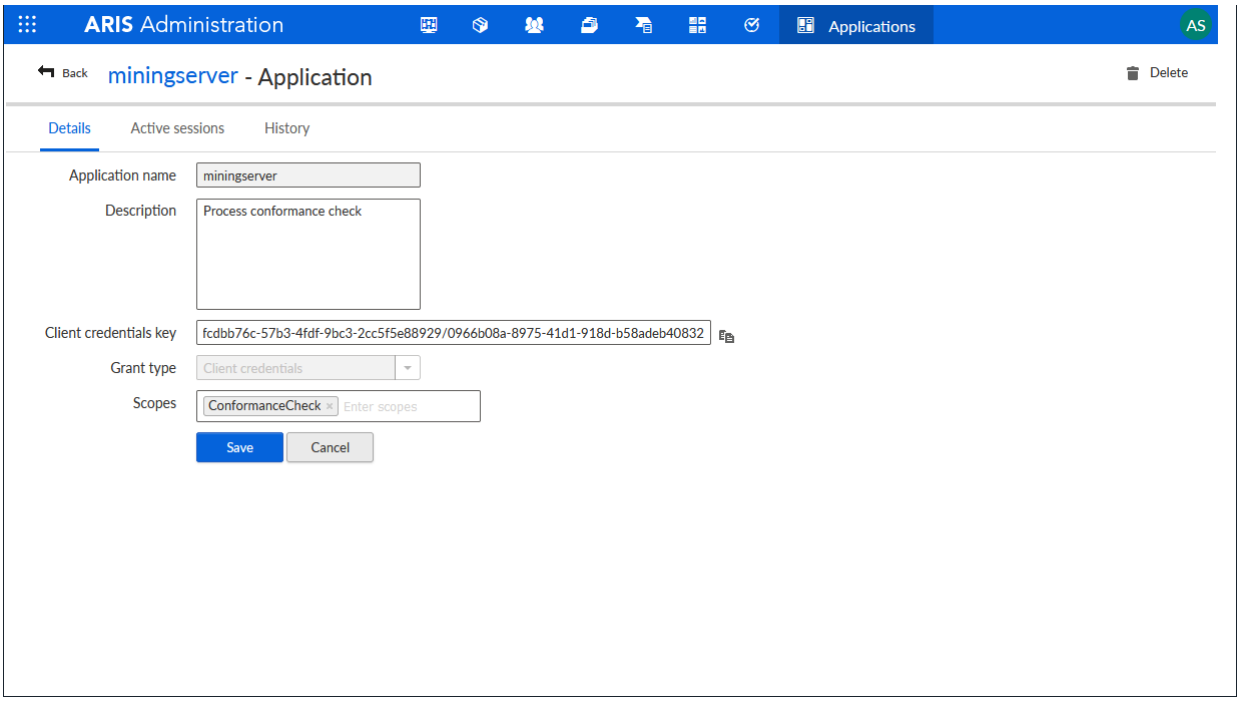


   [完了] をクリックするとダイアログ ボックスが閉じて、ARIS システム統合が作成され、指定した名前が **[システム統合]** コンポーネントの一覧に表示されます。 一覧に表示されるシステム統合のステータスは無視してかまいません。
5. [ARIS Process Mining 統合] ページがある [ARIS] タブを開きます。
6. **[アプリケーション]** をクリックします。
7. **ARIS Process Mining** ボタンをクリックします。 **miningserver** アプリケーションの **[もっと見る]** ページが開きます。
8. **[編集]** ボタンをクリックします。

9. アプリケーションの設定を指定します。
   a. オプションで説明 (「プロセス適合チェック」など) を入力できます。
   b. 対応する入力フィールドにクライアント資格情報キーを入力します。
      手順 4 の記述どおりに、ARIS システム統合からクライアント ID とシークレットをコピーします。以下のように、クライアント ID とシークレットをクライアント情報キーにつなげます。
      <クライアント キー>/<秘密鍵>
      例
      ef1bf998-9658-4433-94d6-1fe8209ab36b/81cbce47-1e67-43c3-a26c-764d85a47126
   c. **[スコープ]** 入力フィールドで API スコープを指定します。 ARIS Process Mining を登録して適合チェックを実行するには、**[ConformanceCheck]** API スコープを追加します。
   d. **[保存]** をクリックします。

例 19

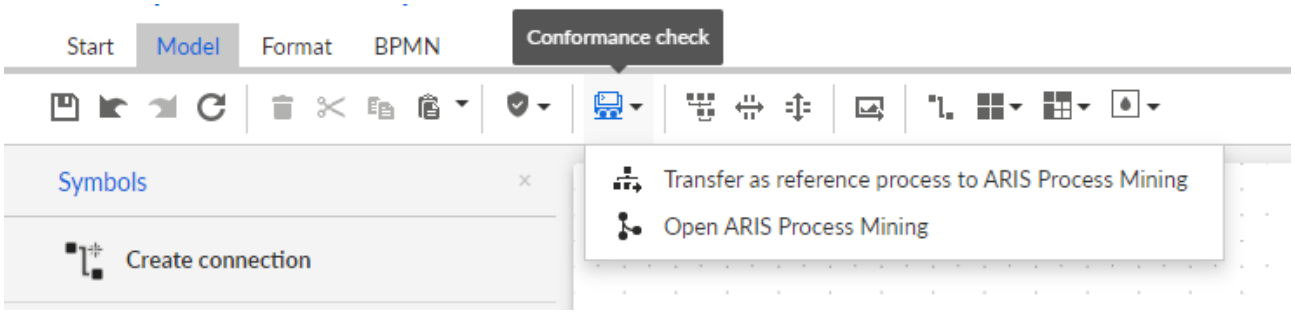
[miningserver] アプリケーションを設定します。



適合分析のための参照プロセス転送が有効化および設定されます。

これで、BPMN モデルを ARIS から ARIS Process Mining に転送できます。 この機能により、ARIS Process Mining を使用して適合チェックを実行できるようになります。

[参照モデルとして ARIS Process Mining へ転送] ボタンが ARIS モデル デザイナーで利用できるようになります。 BPMN モデルを開き、**[モデル]** タブで **[適合チェック]**ボタン、**[参照モデルとして ARIS Process Mining へ転送]** の順にクリックします。


Start
Model
Format
BPMN
Conformance check
Symbols
Create connection
Transfer as reference process to ARIS Process Mining
Open ARIS Process Mining

5. サポートおよび法的情報

このセクションは、製品サポートと法律に関する一般情報を提供します。

5.1. ドキュメンテーションのスコープ

提供されている情報では、印刷が行われた時点における設定および機能について説明しています。ドキュメンテーションとソフトウェアの生産サイクルが異なるため、設定や機能に関する説明が、実際の設定や機能と異なることがあります。相違に関する情報は製品に付属しているリリース ノートに記載されています。リリース ノートをお読みになり、記載されている情報を考慮して製品をインストール、設定、および使用してください。

SAG ARIS GmbH によって提供されるコンサルティング サービスを利用せずにシステムの技術的機能と業務機能をインストールする場合は、インストールするシステム、その目的、対象システム、さまざまな依存性などに関して広範な知識が必要です。プラットフォームの数が多く、ハードウェアとソフトウェアの設定が相互に依存するので、特定のインストール シナリオしか説明できません。すべての設定と依存性を記述することはできません。

各種の技術を組み合わせる場合は、製造元の指示 (特にインターネット ページに公開されたリリースに関するお知らせ) に従ってください。承認されているサードパーティ システムが正しく機能すること、および正しくインストールされることの保証はいたしかねます。また、サードパーティ システムはサポートしていません。必ず、該当の製造元のインストール マニュアルに記載されている手順に従ってください。問題がある場合は、製造元にお問い合わせください。

サードパーティ システムのインストールにサポートが必要な場合は、最寄りの ARIS の販売部門にお問い合わせください。このような製造元またはお客様固有の変更は、ARIS の標準ソフトウェア保守契約の対象ではありません。このような変更は、それを特別に要請し、同意した場合にのみ実行できます。

5.2. サポート

製品サポート

有効なサポート契約をお持ちのすべてのお客様に ARIS 製品のサポートを提供しています。

使用可能な製品バージョンおよびサポート、サポート提供の日程に関する情報は、ARIS Community をご覧ください。

サポート インシデントを作成および更新したり、アイデアと将来的なリクエストを投稿するには、ARIS Community のグローバル サポートにご連絡ください。

Community

ARIS Community に登録すると、製品のダウンロード、アップデートおよび修正、専門的な情報の検索、他のユーザーとの情報交換を行うことができます。

文書

製品の使用方法およびアクティブ化する方法、およびその他の技術サポートに関する質問は、
ARIS Documentation Web サイトをご利用ください。

文書のトピックに関するフィードバックは、 documentation@aris.com までお寄せください。

5.3. Legal notices

This document applies to ARIS Process Mining Version 10 and to all subsequent releases.

Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2020-2026 SAG Aris GmbH, Saarbrücken, Germany and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name ARIS and all SAG Aris GmbH product names are either trademarks or registered trademarks of SAG Aris GmbH and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

The Software may contain or be distributed with certain commercial third party components (“Third Party Components”), which may be subject to special license terms and conditions (“Third Party Terms”) located at https://aris.com/terms.

Third Party Terms include important licensing and warranty information and disclaimers of third party licensors. For the avoidance of doubt, if Customer uses the Software in accordance with the Documentation, the Third Party Terms do not restrict the rights granted under this Agreement. In the event that a third party manufacturer no longer provides active support for any Third Party Component, Supplier will use commercially reasonable efforts to respond to any issues with the Software related to the Third Party Components.

Use, reproduction, transfer, publication or disclosure is prohibited except as specifically provided for in your License Agreement with SAG Aris GmbH and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.